



第 4 回

子ども市議会



平成 1 8 年 8 月 1 日

開 会

会

録

議



別府市議会議長

原 克実

子ども市議会を終えて

第4回「べっぷ子ども市議会」の開会に当たりまして、ご協力いただいた先生方、PTAの皆様、そして、市子連の皆様、大変ありがとうございます。

今回の子ども市議会を通じて、私どもも色々なことを学ばせていただきました。そして、この純真な子どもたちにたくましく夢をかなえる力を、備えていただきたいと心から熱望するものであります。1年先、10年先、あるいは30年先の別府の未来を思い描いていただきたいと思います。

夢を持つということから明るい未来は開けてくれると思いますし、そのために私ども大人は夢をかなえられる社会をつくっていかねばならないと、心を新たにしているところでございます。

どうか今後とも、子どもたちの幸せな環境づくりのため、なお一層のご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



別府市長

浜田 博

輝くべっぷの将来展望は明るい

第4回目を迎えました小学生と中学生の議員による「べっぷ子ども市議会」は、次世代を担う子どもたちによる「ふるさと別府」への鋭い考察と未来に大きく夢広がる提言と宣言により、実り多き「べっぷ子ども市議会」となりました。

特に今回は、あらゆる視点から「資源」の可能性について議論を深めることができるとともに、別府の持つ「豊かな財産」についても再認識し、文化として育て守り続ける必要があると痛感いたしました。

私たちは、夢と希望に満ちあふれる「ONSENツーリズム」のまちづくりを推進することにより、次世代につながる「輝くべっぷ」を創造してまいります。

第4回「べっぷ子ども市議会」の開会にご尽力いただきました先生方、保護者の皆様、そして関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、「べっぷ子ども市議会」の益々の発展をご期待いたします。

議長



小松礼奈議員（中部中3年）

副議長



橘 里実議員（青山中3年）

一般質問



永井利英議員（鶴見台中3年）



川本萌栄議員（野口小6年）



富田 旋議員（北小6年）



雪麟太郎議員（境川小6年）



富田晃平議員（南立石小6年）



工藤功太郎議員（西小6年）



魚住健人議員（山の手中1年）



後藤 萌議員（青山中2年）



篠田菜央議員（浜脇中3年）



佐藤 大議員（中部中 2 年）



安波さくら議員（朝日中 3 年）



池田孝明議員（朝日小 6 年）



後藤健太議員（石垣小 6 年）



山口拓朗議員（亀川小 6 年）



山本伊吹議員（北部中 3 年）



相原雅士議員（東山中 3 年）

提 言



平野沙彩議員（上人小 6 年）



佐藤早紀議員（東山中 3 年）



井上裕理議員（緑丘小 6 年）



麻生卓矢議員（浜脇中 3 年）



早田明日香議員（大平山小 6 年）



甲斐雄貴議員（東山小 6 年）



橋本麻由議員（北部中 3 年）



谷村優香議員（山の手中 2 年）



梶谷啓典議員（春木川小 6 年）



姫野晃輔議員（鶴見小 6 年）



川崎菜摘議員（南小 6 年）



秋本麻衣議員（青山小 6 年）

子ども宣言

謝 辞



大城慶太議員（朝日中 3 年）



熊本恵里議員（鶴見台中 3 年）

第4回「べっぷ子ども市議会」会議録 目次

・ 会期日程表	-----	1
・ 上程議案議決一覧表	-----	1
・ 一般質問表	-----	1
・ 提言表	-----	3

○第1号（8月1日・火曜日）

・ 出席議員	-----	5
・ 欠席議員	-----	6
・ 説明のための出席者	-----	6
・ その他出席者	-----	6
・ 議会事務局出席者	-----	7
・ 議事日程表（第1号）	-----	7
・ 本日の会議に付した事件	-----	7
（開 会）	-----	9
・ 議席の指定	-----	9
・ 会議録署名議員の指名	-----	10
・ 会期の決定	-----	11
・ 一般質問	----- 質問者・ 永 井 利 英 議員 -----	11
	答弁者・ 郷 司 義 明 教育長 -----	11

答弁者・	浜 田	博 市長	-----	1 2
質問者・	川 本	萌 栄 議員	-----	1 3
答弁者・	郷 司	義 明 教育長	-----	1 3
答弁者・	浜 田	博 市長	-----	1 4
質問者・	富 田	旋 議員	-----	1 4
答弁者・	亀 山	勇 企画部長	-----	1 5
答弁者・	浜 田	博 市長	-----	1 5
質問者・	雪	麟太郎 議員	-----	1 6
答弁者・	阿 南	俊 晴 観光経済部長	-----	1 6
答弁者・	浜 田	博 市長	-----	1 7
質問者・	富 田	晃 平 議員	-----	1 8
答弁者・	亀 山	勇 企画部長	-----	1 8
答弁者・	浜 田	博 市長	-----	1 9
質問者・	工 藤	功太郎 議員	-----	2 0
答弁者・	宮 津	健 一 福祉保健部長	-----	2 0
答弁者・	浜 田	博 市長	-----	2 1
質問者・	魚 住	健 人 議員	-----	2 2
答弁者・	宮 津	健 一 福祉保健部長	-----	2 2
答弁者・	阿 南	俊 晴 観光経済部長	-----	2 3

答弁者・	浜 田	博 市長	-----	2 3
質問者・	後 藤	萌 議員	-----	2 4
答弁者・	郷 司	義 明 教育長	-----	2 5
答弁者・	浜 田	博 市長	-----	2 6
質問者・	篠 田	菜 央 議員	-----	2 6
答弁者・	高 橋	徹 生活環境部長	-----	2 7
答弁者・	浜 田	博 市長	-----	2 7
質問者・	佐 藤	大 議員	-----	2 8
答弁者・	郷 司	義 明 教育長	-----	2 9
答弁者・	浜 田	博 市長	-----	3 0
質問者・	安 波	さくら 議員	-----	3 0
答弁者・	阿 南	俊 晴 観光経済部長	-----	3 1
答弁者・	浜 田	博 市長	-----	3 1
質問者・	池 田	孝 明 議員	-----	3 2
答弁者・	高 橋	徹 生活環境部長	-----	3 2
答弁者・	浜 田	博 市長	-----	3 3
質問者・	後 藤	健 太 議員	-----	3 3
答弁者・	金 澤	晋 建設部長	-----	3 4

答弁者・	浜 田 博 市長	-----	3 4
質問者・	山 口 拓 朗 議員	-----	3 5
答弁者・	阿 南 俊 晴 観光経済部長	-----	3 5
答弁者・	浜 田 博 市長	-----	3 6
質問者・	山 本 伊 吹 議員	-----	3 7
答弁者・	阿 南 俊 晴 観光経済部長	-----	3 7
答弁者・	浜 田 博 市長	-----	3 8
質問者・	相 原 雅 士 議員	-----	3 9
答弁者・	高 橋 徹 生活環境部長	-----	3 9
答弁者・	浜 田 博 市長	-----	3 9
(休 憩)	-----		4 0
(再 開)	-----		4 0
・ 提言の発表	----- 平 野 沙 彩 議員	-----	4 0
	佐 藤 早 紀 議員	-----	4 1
	井 上 裕 理 議員	-----	4 1
	麻 生 卓 矢 議員	-----	4 2
	早 田 明日香 議員	-----	4 2
	甲 斐 雄 貴 議員	-----	4 3
	橋 本 麻 由 議員	-----	4 4
	谷 村 優 香 議員	-----	4 4

梶谷啓典議員	-----	44
姫野晃輔議員	-----	45
川崎菜摘議員	-----	45
秋本麻衣議員	-----	46
・議員提出議案第1号子ども宣言について、上程	-----	47
・提案理由説明	----- 大城慶太議員 -----	47
・表決	-----	48
・閉会	-----	48

[閉 会 式] 目 次

・閉会式次第	-----	49
・開 会	-----	51
・市議会議長あいさつ	----- 永井 正 市議会議長 -----	51
・市長あいさつ	----- 浜田 博 市長 -----	52
・記念品の贈呈	----- 郷司 義明 教育長 -----	54
・子ども議員代表者謝辞	----- 熊本 恵理 議員 -----	55
・閉 会	-----	55

第4回「べっぷ子ども市議会」会議録

○会 期 平成18年8月1日(1日間)

○会期日程表

平成18年8月1日(火) 本会議 議席の指定、会議録署名議員の指名、会期の決定、一般質問、提言、議員提出議案第1号
子ども宣言について

○上程議案議決一覧表

議員提出議案第1号 子ども宣言について 平成18年8月1日 原案可決

○一般質問表

質 問 項 目	質 問 議 員
外国の人との交流の機会を増やしてほしい	30番議員・鶴見台中学校 永 井 利 英
なぜ、小学校には、更衣室がないのか	1 番議員・野口小学校 川 本 萌 栄
観光の中心となる建物・シンボルづくりについて	3 番議員・北小学校 富 田 旋
観光における別府市の将来の展望について	2 番議員・境川小学校 雪 麟太郎

環境にやさしいエネルギー開発は進んでいるか	7番議員・南立石小学校 富 田 晃 平
安くて良い病院施設が欲しい	5番議員・西小学校 工 藤 功太郎
ちゃんとお金が行き届いているか	19番議員・山の手中学校 魚 住 健 人
別府市のよさを知るために、毎月1回「子どもの日」をつくって、バスの値段を100円にできないか	21番議員・青山中学校 後 藤 萌
別府の自然を美しい形で残すには	25番議員・浜脇中学校 篠 田 菜 央
教育施設の充実について	31番議員・中部中学校 佐 藤 大
別府の観光資源の開発・発展について	28番議員・朝日中学校 安 波 さくら
町のごみをへらす工夫について	11番議員・朝日小学校 池 田 孝 明

道路整備について	12番議員・石垣小学校 後 藤 健 太
竹細工のよさを広め、残していく方法	9 番議員・亀川小学校 山 口 拓 朗
亀川商店街と楠港跡地について	23番議員・北部中学校 山 本 伊 吹
観光客が捨てる東山のゴミ	17番議員・東山中学校 相 原 雅 士

○提言表

提 言 内 容	提 言 議 員
みんなが使えるような公園を多く作って	10番議員・上人小学校 平 野 沙 彩
東山からゴミをなくそう	18番議員・東山中学校 佐 藤 早 紀
別府の桜について	14番議員・緑丘小学校 井 上 裕 理

活気あふれるまちづくりについて	26番議員・浜脇中学校 麻 生 卓 矢
緑いっぱいの別府	15番議員・大平山小学校 早 田 明日香
東山に投棄されるゴミからみた別府の環境	16番議員・東山小学校 甲 斐 雄 貴
横断歩道について	24番議員・北部中学校 橋 本 麻 由
別府の環境問題について	20番議員・山の手中学校 谷 村 優 香
ラクテンチに家族風呂を	13番議員・春木川小学校 梶 谷 啓 典
カーブミラーや歩道の整備について	8 番議員・鶴見小学校 姫 野 晃 輔
温泉のすばらしさを多くの人に知ってもらう取組を	4 番議員・南小学校 川 崎 菜 摘
ゴミのない美しい別府をつくるには	6 番議員・青山小学校 秋 本 麻 衣

第4回「べっぷ子ども市議会」会議録(第1号)

平成18年8月1日

○出席議員(32名)

1番議員	野口小学校	6年	川本萌栄さん
2番議員	境川小学校	6年	雪 麟太郎君
3番議員	北小学校	6年	富田 旋君
4番議員	南小学校	6年	川崎菜摘さん
5番議員	西小学校	6年	工藤功太郎君
6番議員	青山小学校	6年	秋本麻衣さん
7番議員	南立石小学校	6年	富田晃平君
8番議員	鶴見小学校	6年	姫野晃輔君
9番議員	亀川小学校	6年	山口拓朗君
10番議員	上人小学校	6年	平野沙彩さん
11番議員	朝日小学校	6年	池田孝明君
12番議員	石垣小学校	6年	後藤健太君
13番議員	春木川小学校	6年	梶谷啓典君
14番議員	緑丘小学校	6年	井上裕理さん
15番議員	大平山小学校	6年	早田明日香さん
16番議員	東山小学校	6年	甲斐雄貴君
17番議員	東山中学校	3年	相原雅士君
18番議員	東山中学校	3年	佐藤早紀さん
19番議員	山の手中学校	1年	魚住健人君
20番議員	山の手中学校	2年	谷村優香さん
21番議員	青山中学校	2年	後藤 萌さん
22番議員	青山中学校	3年	橘 里実さん
23番議員	北部中学校	3年	山本伊吹君
24番議員	北部中学校	3年	橋本麻由さん

25番議員	浜脇中学校	3年	篠田 菜央さん
26番議員	浜脇中学校	3年	麻生 卓矢君
27番議員	朝日中学校	3年	大城 慶太君
28番議員	朝日中学校	3年	安波 さくらさん
29番議員	鶴見台中学校	3年	熊本 恵里さん
30番議員	鶴見台中学校	3年	永井 利英君
31番議員	中部中学校	2年	佐藤 大君
32番議員	中部中学校	3年	小松 礼奈さん

○欠席議員（なし）

○説明のための出席者

市長	浜田 博君	助役	大塚 利男君
助役	林 慎一君	教育長	郷司 義明君
水道局長	松岡 真一君	総務部長	友永 哲男君
企画部長	亀山 勇君	観光経済部長	阿南 俊晴君
建設部長	金澤 晋君	生活環境部長	高橋 徹君
福祉保健部長	宮津 健一君	消防長	加藤 隆久君
水道局参事	田仲 良行君	学校教育課長	辻 修二郎君

○その他出席者

別府市議会議長	永井 正君
別府市議会副議長	吉富 英三郎君
別府市議会子ども会を支える議員連盟会長	首藤 正君
別府市子ども会育成会連合会会長	平松 徹夫君
別府市PTA連合会会長	後藤 智君

○議会事務局出席者

局	長	岩	本	常	雄	参	事	加	藤	陽	三
次	長	兼	調	査	係	長	是	永	敏	明	
主		査	渡	辺	敏	之	主	査	濱	崎	憲
主		査	永	野	修	子	主	査	柏	木	正
主		査	花	田	伸	一	主	事	後	藤	真由美

○議事日程表（第1号）

平成18年8月1日(火曜日)午前9時開議

第1 議席の指定

第2 会議録署名議員の指名

第3 会期の決定

第4 一般質問

第5 提 言

第6 議員提出議案第1号 子ども宣言について

○本日の会議に付した事件

日程第1～日程第6（議事日程に同じ）

○市議会事務局長（岩本常雄君） 初めに、議長、副議長の選出ですが、あらかじめ決定されております。御紹介をさせていただきます。議長は、中部中学校3年生・小松礼奈さん。副議長は青山中学校3年生・橘 里実さんをお願いしますのでよろしくお願いいたします。

それでは、小松さんと橘さんは議長席、副議長席までお願いいたします。

午前9 時00分 開会

○議長（小松礼奈さん） おはようございます。

ただいま、ご紹介をいただきました、議長役の中部中学校の小松礼奈と副議長役の青山中学校の橘 里実さんです。

日本一の温泉のまちづくりのため、また、日本一の子ども市議会になるよう頑張りたいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

これより、第4回「べっぷ子ども市議会」を開会いたします。

開会にあたり、市長さんをはじめ多くの皆さんの出席をいただきました。

本日の議事は、「議事日程第1号」により行います。

まず、日程第1により、議席の指定を行います。

議席は、議長において指定いたします。

議席番号と氏名を職員の方に読み上げてもらいます。

○市議会事務局主査（永野修子さん） それでは、議席番号と氏名を読み上げますので、「はい」と返事をし、起立の上一礼をしてください。

1 番議員 野口小学校 川 本 萌 栄 さん

2 番議員 境川小学校 雪 麟太郎 君

3 番議員 北 小 学 校 富 田 旋 君

4 番議員 南 小 学 校 川 崎 菜 摘 さん

5 番議員 西 小 学 校 工 藤 功太郎 君

6 番議員 青山小学校 秋 本 麻 衣 さん

7 番議員 南立石小学校 富 田 晃 平 君

8 番議員 鶴見小学校 姫 野 晃 輔 君

9番議員	亀川小学校	山	口	拓	朗	君
10番議員	上人小学校	平	野	沙	彩	さん
11番議員	朝日小学校	池	田	孝	明	君
12番議員	石垣小学校	後	藤	健	太	君
13番議員	春木川小学校	梶	谷	啓	典	君
14番議員	緑丘小学校	井	上	裕	理	さん
15番議員	大平山小学校	早	田	明日香		さん
16番議員	東山小学校	甲	斐	雄	貴	君
17番議員	東山中学校	相	原	雅	士	君
18番議員	東山中学校	佐	藤	早	紀	さん
19番議員	山の手中学校	魚	住	健	人	君
20番議員	山の手中学校	谷	村	優	香	さん
21番議員	青山中学校	後	藤		萌	さん
22番議員	青山中学校	橘		里	実	さん
23番議員	北部中学校	山	本	伊	吹	君
24番議員	北部中学校	橋	本	麻	由	さん
25番議員	浜脇中学校	篠	田	菜	央	さん
26番議員	浜脇中学校	麻	生	卓	矢	君
27番議員	朝日中学校	大	城	慶	太	君
28番議員	朝日中学校	安	波	さくら		さん
29番議員	鶴見台中学校	熊	本	恵	里	さん
30番議員	鶴見台中学校	永	井	利	英	君
31番議員	中部中学校	佐	藤		大	君
32番議員	中部中学校	小	松	礼	奈	さん

以上でございます。

○議長（小松礼奈さん） ただいま、職員の方に読み上げていただいたとおり、議席を指定いたします。

次に、日程第2により、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、

2番 雪 麟太郎 君

12番 後 藤 健 太 君

28番 安波さくら さん

以上、三名の方をお願いいたします。

次に、日程第3により、会期の決定を議題といたします。子ども市議会の会期は本日一日といたしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔〔異議なし〕と呼ぶ者あり〕

○議長（小松礼奈さん） ご異議なしと認めます。

よって、子ども市議会の会期は本日一日と決定いたしました。

次に、日程第4により、一般質問を行います。一般質問者は16名です。質問順位により、質問をお願いいたします。

最初に、30番議員、鶴見台中学校の永井利英君の一般質問をお願いいたします。

○30番議員（永井利英君） 今、ぼくたちの暮らしている別府市では、APUや別府大学などのおかげでどんどん国際化が進んできていると思います。まちの中を歩いても、最近ではいろいろな国の人と会うことがとても多くなっています。このようにたくさんの国の人々が集まっているのに、今の別府市の小中学校では、外国の人と交流する機会がとても少ないのではないかと思います。ぼくたちの学校でも英語の授業やいろいろな集会のときに外国の方が来てくれることはありますが、その回数は数えるほどしかありませんし、規模の小さなものが多いと思います。このままでは国際化がなかなか進まないのではないのでしょうか。たとえば、月に一度、市内の小中学校にAPUの学生の方が来たり、逆に小中学生が授業の様子を見に行ったりするなどの方法もあると思います。国際化の進む今の世の中で多くの人の国際理解や外国語についてもっと詳しく学ぶためにも、外国人との交流にさらに力を入れていくべきだと思います。

国際交流について、別府市ではどのようなことを行っていく予定なのか、教えてください。

○議長（小松礼奈さん） 教育長。

○教育長（郷司義明君） ただいまの永井議員さんの御質問にお答えいたします。

今、議員さんの質問の中にありましたように、今、別府市にはAPUとか別府大学、それからまた溝部学園短期大学などで多くの留学生が学んでおります。そうした中でそれぞれの各小学校、中学校では、総合的な学習の時間だとか、特別活動の時間を利用して、地域や学校の状況に応じて今御質問にありましたように、留学生とともに交流を通して学んでいくことをしている学校がございます。ただ、これからももっともっと多くの交流をしていかなければならないという御提案でございますので、そのことをしっかり受けまして、学校の校長先生方にもっともっと学校行事等でこうした交流ができるんじゃないかということを伝えていきたいと思っております。

それからまた別府市の学校では、国際交流教室を開催しまして、積極的に留学生との交流を行っている学校もあります。今後ともさまざまな交流事業について、国際交流室とともに検討していきたいと思っております。

また、学校での国際交流室の交流だけではなくて、別府駅前には開設されております「別府国際交流サロン」というものがございます。こういったところでみずから体験活動等を通して学んでいくことも大事ではないかなと思っておりますので、どうぞ永井議員も体験してみてはいかがでしょうかと思います。

さらに、学校以外の場では、市民と留学生の交流イベントや、大学や留学生が主催するさまざまな交流活動が新聞等で紹介されていると思います。どうかこのような取り組みに積極的に参加していただければと思っているところでございます。以上でございます。

○議長（小松礼奈さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 永井利英議員の質問にお答えいたしたいと思います。

今、本当に貴重な御意見をいただきました。別府市は、県内はもとより、全国でもとりわけ留学生がたくさん住むまちだというふうに思っております。国の数で言うところ77の国から、人数は2,500人以上の留学生の皆さんが別府で学んで生活をしていただいております。そういう意味でもっともっと国際交流を深めていかななくてはいけないなと思っておりますが、先日の音頭大会でも浴衣を着てたくさんの留学生の皆さんが私たちと一緒に踊りました。本当にいろんなイベントにも参加を

いただいております。今、御提言があったように学校だけではなくて、さまざまなところで交流が進むようにこれからもしっかりと頑張っていきたいと思っております。市民の皆さんにもしっかりとPRをしていきたいと思っておりますから、ぜひ永井議員も機会があればいろんなところに参加をしていただきたいと思います。貴重な御提言ありがとうございました。

○議長（小松礼奈さん） 30番。

○30番議員（永井利英君） ありがとうございました。これからも国際交流の機会が増えていくことを期待しています。これでぼくの質問を終わります。

○議長（小松礼奈さん） 次に、1番議員、野口小学校の川本萌栄さんの一般質問をお願いいたします。

○1番議員（川本萌栄さん） 市長さんにお尋ねいたします。

学校にはなぜ更衣室がないのでしょうか。皆さんの学校も同じだと思いますが、私の学校では体育の着替えは集会室でしています。そこに鍵はありません。のぞこうと思えば簡単にのぞくことができます。事実、私の学校では同じクラスの男子にのぞかれたことがあります。のぞかれたことで深い傷を持った子いるのではないのでしょうか。やってはいけないと先生も言うのですが、何といたっても更衣室がないというのはおかしいと思います。プールの着替えにも困っています。プールには更衣室があったと言うのですが、今はプール用の倉庫になっています。大人の場合はあるのに、子どもだからといってないのは許せません。市長さんのお考えをお聞かせください。

○議長（小松礼奈さん） 教育長。

○教育長（郷司義明君） お答えをいたします。

一番目の質問にございました学校には子ども用の更衣室がないのでどうですかという御質問だったと思います。そのことにつきましてお答えいたしますが、川本さんも御存じのように学校の教室は皆さん方が勉強や活動に役立つようにつくってあります。そのために更衣室というものは設置されておられません。今、御質問にありましたように着替えは多分、教室や集会室を利用して行っているのではないだろうかなと思います。そのような中で鍵がかかっていないので、のぞかれるということ

で御質問がございましたように、ほとんどの教室は今鍵があっても廊下からかけるようになっていると思います。内側から鍵をかけますと、後から入ってくるお友だちが今度はなかなか入れないというふうなこともございます。そういうふうなことで問題がたくさんありますので、これからは学校でこの問題についてどうしたらいいか、本当に内側から鍵をかける方がいいかというふうなことで、学級会や児童会等で相談しまして、そういうふうに決まりましたらぜひお知らせ願いたいと思います。そのことをしっかりと教育委員会でも考えていきたいと思っております。

それから2番目のプールの更衣室があるんだけど、今ではコースロープやロイター板などの倉庫として利用されているということだったと思います。早速、学校と相談しましてそういった部分をしっかり整備しまして、更衣室として使えるようにいたしましたので、どうか2学期から、また夏休みの水泳のときにも使っていたきたいと思っております。以上でございます。

○議長（小松礼奈さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 川本萌栄議員の質問にお答えします。

市長の考えをということでございますが、今、教育長が答弁をしたように、専用の更衣室が欲しいという気持ちは本当によく理解ができます。しかし、すぐにつくることができないということでございますので、今使っている教室とか集会室の利用の仕方を工夫して使う方法をぜひ皆さんで相談してください。その結果、鍵がかからないからのぞき見されるということも聞きましたので、鍵はどこからかけるのか、このことも踏まえて必要であれば取り付けを実現できるように努力したいと思います。貴重な御質問をありがとうございました。

○議長（小松礼奈さん） 1番。

○1番議員（川本萌栄さん） ありがとうございます。これで私の質問を終わります。

○議長（小松礼奈さん） 次に、3番議員、北小学校の富田旋君の一般質問をお願いいたします。

○3番議員（富田 旋君） 別府市が将来すてきなまちになるためのぼくたち北小の意見は、別府のシンボリックな場所や建物をつくればよいのではないかと思います。

たとえば、その中には別府の歴史を学べるような歴史博物館や、ぼくたちが学習

できるような資料館をつくります。また、温泉などもつくることのでつかれた体を休めることもできます。その周りには自然や動物と触れ合えるような場所をつくりま
す。そうすれば別府の小学生や中学生が学べる場所になるし、お年寄りなどがゆっ
くり過ごせる場所になると思います。自然を守ることにもつながると思います。ま
ずは別府市の人たちが何度でも足を運んでくれるような場所にすること。そうすれ
ばだんだんと市外や県外の人たちも足を運んでくれるようになると思います。土地
の問題やお金の問題もあると思いますが、ぼくたちの意見に対する市長さんの御意
見をお聞かせください。

○議長（小松礼奈さん） 企画部長。

○企画部長（亀山 勇君） お答えいたします。

すてきなまちになるためには、別府のシンボリックな場所や建物をつくればよいの
ではないかと。将来の別府を思う気持ちが伝わってきて、大変参考にさせていただ
きました。

別府市につきましても、住んでよし、また訪れてよし、そしてまた何度も訪れた
くなる別府のまちづくりを基本にまちづくりを進めております。

一つの考え方でございますが、現在まちづくりのための3つの国の法律が見直さ
れました。これは別府市の中心市街地に昔のにぎわいを取り戻し、そしてお年寄り
が住んで歩いて暮らせるまちづくりを目指すといったものが主な内容となっていま
す。富田議員の貴重な意見を参考にいたしまして、どのような場所にどのような建
物をつくればいいのか、また多くの市民の意見を聞いていきたいと考えております。
また、観光の中心となる建物、シンボルづくりをするためには、土地やお金の問題
も確かにございます。これについては国の補助制度といったものがございますので、
これを有効に使って、子どもからお年寄り、そして市民や観光客から喜ばれる施設
は何かできるのか、今後とも調査・検討を続けてまいりたいと思います。以上でご
ざいます。

○議長（小松礼奈さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 富田議員の質問にお答えします。

御存じのとおり別府は温泉と観光のまちでございます。周りには自然もたくさん

残っております。私も市長に立候補するときに、この海と山と湯けむり、この自然を生かしたまちづくりをしたいという思いでいっぱいでした。それと今、観光の建物やシンボルをぜひということですが、その中で別府は日本一の温泉地ですから、温泉科学博物館、資料館などで修学旅行などに来てほしいなという思いから、ぜひつくりたいという思いで公約に挙げております。ぜひそのことでしっかり努力をしていきたいと思っておりますから、そういう意味では富田議員と全く同じ思いでございます。富田議員も別府がすてきなまちになることを思う気持ちをぜひ大切にしてください。今後もいろいろな意見を参考にまちづくりにしっかり頑張っていきたいと思っております。貴重な御質問ありがとうございました。

○議長（小松礼奈さん） 3番。

○3番議員（富田 旋君） ありがとうございます。これでぼくの質問を終わります。

○議長（小松礼奈さん） 次に、2番議員、境川小学校の雪麟太郎君の一般質問をお願いいたします。

○2番議員（雪麟太郎君） 境川小学校6年・雪麟太郎です。別府市の観光についてお尋ねします。

最近の別府のまちの様子を見ると、たくさんの外国の方が歩いている姿をよく見かけます。そしてお休みの日には県外ナンバーの車がたくさん走っています。それからわかるように別府市にはたくさんの観光客の方々が来ています。やはり県外の方々や外国のお客さんの目的は、ゆっくり温泉につかることや温泉を利用した地獄を巡ることだと思います。温泉という一つの資源を生かすことはとても素晴らしいことです。

そこでひとつ質問です。温泉のほかにも活用できる資源や、お客さんに楽しんでもらえる場所があれば、もっとたくさんの方がいらっしゃいますし、その方々の思い出にも残ることだと思います。別府市としてのこれからの計画や展望があればお聞かせください。

○議長（小松礼奈さん） 観光経済部長。

○観光経済部長（阿南俊晴君） お答えいたします。

温泉以外の観光資源、またお客様が楽しめる場所についてでございます。自然に

囲まれた別府市にはたくさんございます。たとえば志高湖の奥に神楽女湖がございます。6月の中旬から7月の初旬にかけて花菖蒲の観賞ができます。この期間中に約5万人の方々がここを訪れます。貸し切りバスなどで県外から多くのお客様がおいでになります。また、年間を通じて温泉まつり、鶴見岳一気登山、そして夏まつり、冬の花火などいろいろなイベントを実施をしておりますが、お客様がたくさん別府に来てもらえるよう努力をいたしております。今後さらにこれらのイベントを充実していきたいと考えております。

最近では、ボランティア団体による路地裏散歩など民間団体によるまちづくりが盛んになっております。こうした団体の方々と十分協力をいたしまして、お客様の受け入れ態勢を整えていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（小松礼奈さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 雪麟太郎議員の質問にお答えします。

最近の観光というのは形態が変わってきています。今までは名所旧跡を見てお土産を買って帰るという観光が多かったんですが、今は訪れた場所で何かを体験してみたい、こういうお客さんがたくさん増えています。そういう意味で今別府市では「ONSENツーリズム」という言葉を聞いたことはありますか。温泉をローマ字で書いているんです。そういう組織をつくりました。部をつくりました。これは「ONSEN」というのはローマ字でまず世界共通語にしたいという私の思いがあるんですが、温泉と言ったら「ホットスプリング」、おふろですね。しかし「音泉（おんせん）」、音楽、ミュージック、こういう文化を取り入れたいいわゆるツーリズム、総合産業と言います。「観光」という言葉を「ツーリズム」という言葉に変えようという思いなんです。だから「グリーンツーリズム」とか「エコツーリズム」とか聞いたことがあるでしょう。そういう思いで、今別府は「ONSENツーリズム」の推進、いわゆるいろんな観光資源を活用して健康の問題、温泉を利用した医療、病院との関係、そして先ほど言った音楽、文化のあふれるまちづくり、こういうものを中心にして今「ONSENツーリズム」を進めております。「癒し（いやし）」といいですか、心の癒しを感じられるようなそういうまちづくりに取り組んでいきたい。たくさんの皆さんが別府のまちづくりに取り組んでいただける

ように頑張っていきたいと思います。別府に来たお客さんが「ああ、別府に来てよかったな。心の温かいまちだな」とこのように感じるようなそういうまちづくりをしたい、こう思っております。

それから市民憲章を知っていますね。市民憲章の3つ目に「お客様をあたたく迎えましょう」ということがあります。このように来たお客さんに対して、温かく迎えらるそういう人づくりにもしっかりとがんばっていきたいとこう思っております。貴重な質問をありがとうございました。

○議長（小松礼奈さん） 2番。

○2番議員（雪麟太郎君） 別府市にもいろいろな施設がありますが、もっと新しい施設ができて、県外の方々や外国の方々が来ていただくとにぎやかになっていいと思います。これで多くの質問を終わります。

○議長（小松礼奈さん） 次に、7番議員、南立石小学校の富田晃平君の一般質問をお願いいたします。

○7番議員（富田晃平君） ぼくは環境にやさしいエネルギー開発は進んでいるのかということについて質問します。

ぼくは4年生のときに九重町から別府市に転校してきました。別府にきて最初に思ったことは、温泉のすばらしさと鶴見山から吹き下ろす鶴見下ろしの強さです。以前住んでいた九重町では地熱発電をしていましたし、また今回の修学旅行では風力発電をしているところも見ました。

そこで、別府市でも鶴見下ろしを利用した風力発電や、温泉の地熱を使った地熱発電ができるのではないかと考えています。

そこで質問ですが、別府市には風力発電や地熱発電など環境にやさしいエネルギー開発を進める計画はあるのですか。あれば詳しく教えてください。また計画がなければなぜできないのかも教えてください。

○議長（小松礼奈さん） 企画部長。

○企画部長（亀山 勇君） お答えをいたします。

まず風力発電についてでございますが、現在、別府市東山という地名がございます。ここの牧草地において民間の企業によりますところの計画が以前からあります。

この風力発電につきましては、風の強さが変わるとつくられるいわゆる電力の量が変わるといった短所もございます。新エネルギーの中では最も採算性が高いと言われておりますので、これを事業として取り組む会社が多いというのが現状でございます。しかし、今の制度ではこの風力で発電した電力は九州電力に買ってもらうなければならない、販売を希望する電力量も多いということから、九州電力が毎年抽選して電力を買う相手を決めているという状況でございます。

それから地熱発電についてでございますが、別府市ではスギノイホテルだけが地熱で電力をつくり、スギノイホテル内でこれが利用されております。この地熱発電は石油などの燃料を必要としないいわゆるクリーンエネルギーでございまして、貴重なエネルギーを国内の資源でつくることができることから、現在見直しが進められているという状況でございます。ただ、これについては調査・開発に莫大な費用がかかるということから、発電にかかる費用が石油に比べて割高になるということから、新規の地熱発電施設の計画は全国的に進んでいないというのが現状でございます。以上でございます。

○議長（小松礼奈さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 富田晃平議員の質問にお答えいたします。

石炭、石油などの化石の燃料というのは、資源の埋蔵量に限界があるということは知っておりますね。同時に燃焼したときに地球温暖化のもとになる二酸化炭素を排出するということから、今新しいエネルギーの開発が非常に重要視されてきました。富田議員はいいところに注目しましたね。富田議員の質問のとおり、新たなエネルギーとして風力発電とか地熱発電は、今まさに注目をされ、全国でも重要視されているんですが、開発には莫大な費用がかかるんです。あなたが想像を絶するようなお金がかかる。行政だけでできるものではございませんので、市役所が事業として取り組むことがむずかしい。そこで私は民間の活力といいますか、民間の皆さんがこの地球温暖化を含めて、環境問題に今非常に関心を持っていただいておりますから、そういう意味で民間の企業が事業として取り組むということになると思いますので、そういったときにはしっかり行政としてできる限りの応援をしていきたい、このように考えております。大変貴重な質問をありがとうございました。

○議長（小松礼奈さん） 7番。

○7番議員（富田晃平君） ありがとうございます。これでぼくの質問を終わります。

○議長（小松礼奈さん） 次に、5番議員、西小学校の工藤功太郎君の一般質問をお願いいたします。

○5番議員（工藤功太郎君） 僕は西小学校校区内に住んでいます。ぼくたちは子ども議会で質問することや提案することなどをクラスで話し合いました。そのとき、ぼくの友だちが「ぼくのおばあちゃんが病気で亡くなったときに、西小校区には病院が余りない。緊急で行ける安くてよい設備の整った病院を増やしてほしい」と言っていました。

ぼくは、お年寄りが病気で亡くなっていくのがかわいそうと思います。西小校区にはお年寄りの人が多いので、できれば光町、朝見、原町の人たちが行ける病院を建ててほしいと思います。市長さん、お願いします。病院を建ててください。

○議長（小松礼奈さん） 福祉保健部長。

○福祉保健部長（宮津健一君） お答えいたします。

現在、別府市には医療施設と呼ばれる病院等が平成18年3月末現在で230施設ございます。この数は大分県平均の1.35倍、全国平均で言いますと1.36倍でございます。ということは、別府市は大変医療施設の数が多いということでございます。工藤議員の住んでいる近くの山の手校区、または浜脇校区にも60カ所以上の医療施設がございます。

また、急に病気になったりけがをしたときに救急車等で運ばれる救急病院でございますが、市内に10カ所ございます。救急でも対応できるようになっております。

また、御質問の中に西校区はお年寄りが多いというお言葉がございましたが、高齢者につきましては、別府市は65歳以上のいわゆる全体の人口に占める高齢者の割合といたしますか、それが25.78%。また西校区では36.75%、大変高い数値を示しております。全国で申しますと、日本全国では21%。これは言い換えますと日本全国では4人に1人が65歳以上。別府市の場合は4人に1人、または西校区では3人に1人が高齢者ということになります。

病院などの医療施設は、医療法人とし民間の組織でつくられることが多くござい

ます。別府市が病院をつくるということは、費用の面などで大変厳しいものがござ
います。先ほども申しましたように市内にはたくさんの医療施設がございいますので、
工藤議員が御質問をされたように西校区に新たな病院をつくる計画は現在のところ
ございませんが、別府市では今、市民の皆さんが健康で病気にかからないようにす
るために、「湯のまちべっぷ健康21」という計画を立てました。この中で健康で
いるためには、バランスのいい食事をする、また適度な運動が大切ですよというこ
とをお知らせをしたり、病気を防ぐために健康診断や健康相談をお受けになるよう
にということで、そういうPRもいたしております。以上でございます。

○議長（小松礼奈さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 工藤功太郎議員の質問にお答えいたします。

今、別府市では別府市の発展を図るために、基本計画の中で健康で安心して暮ら
せる福祉のまちづくりというものを挙げております。今、日本全体の問題として生
まれる赤ちゃんの数がとても減ってきていること、そしてお年寄りがたくさん増え
ているということがあります。この状況で、今西校区のお話もありました。今、別
府市全体では4人に1人が高齢者、西校区では3人に1人だという状況の説明があ
りましたが、このような状況の中で、お年寄りの皆さんが安心して行ける設備の整
った病院が増えること、そして病院にかかる費用が安く済むということがとても重
要なことだと思っています。

これまでもいろいろな制度をつくって、病気になったときにも安心して病院にか
かることができるように取り組んできました。市民の皆さん、病院のお医者さんた
ちの協力をいただいて、暮らしやすいまちづくりを進めていきたいと思っております。

今、工藤議員の質問にありましたように、お年寄りのために安くてよい病院を建
ててほしいというお年寄りをいたわるやさしい気持ちに、本当に感動いたしました。
ぜひこれを大切に持ち続けてください。貴重な質問をありがとうございました。

○議長（小松礼奈さん） 5番。

○5番議員（工藤功太郎君） ありがとうございます。これで僕の質問を終わります。

○議長（小松礼奈さん） 次に、19番議員、山の手中学校の魚住健人君の一般質問をお

願いいたします。

○19番議員（魚住健人君）　ぼくはちゃんとお金が行き届いているかについて質問します。

別府のまちの中を歩いていると、ときどき駅前やデパートの前などで募金箱を持って立っている人の姿を見かけます。また、赤い羽根や緑の羽根などで各家庭を回り募金をしていますが、その集まったお金はどのような形で施設に寄付をするのですか。必要なところにちゃんとお金が行き届いているか、ときどき疑問に思うことがあります。別府市では最近はどこに寄付をしているのですか。また、どのように使っているのですか。よく新聞やニュースなどで税金を無駄に使っていたり、後から調査でわかったというようなことがあり、気になります。ぼくたちが協力した募金をどのような形で手渡し、その相手がちゃんと使っているかなど確認をどのようにしているのでしょうか。教えてください。

○議長（小松礼奈さん）　福祉保健部長。

○福祉保健部長（宮津健一君）　お答えいたします。

今、私の胸に3つの羽根がございます。まず募金活動というのはいろんな種類があり、またそれぞれ目的も違っております。たとえば赤い羽根の募金は、全国でおよそ9万件の社会福祉活動やボランティア活動に役立てられております。また青い羽根の募金は、海難救助活動に役立っております。このほかにも毎年12月に行われております歳末助け合い運動、また24時間テレビの募金活動、さらに大きな災害が起こったときにする募金活動などさまざまな募金活動が行われております。集まったお金はそれぞれの目的に使われ、使った後は報告書を出していただきます。それが一般的でございます。

一例として、別府市がやっております歳末助け合い運動につきましては、各町内や街頭で募金活動を行っております。集まったお金は別府市の社会福祉協議会を通じまして、市内の在宅の寝たきりの老人の家、また在宅の重度障がい児の見舞金として使われております。そのほかにも障がい者の施設、保育園、児童施設、福祉団体等に分配をされております。

緑の羽根につきましては、観光経済部長より御答弁をさせていただきます。

○議長（小松礼奈さん） 観光経済部長。

○観光経済部長（阿南俊晴君） お答えいたします。

緑の羽根募金について御説明をさせていただきます。

これにつきましては、ボランティアの皆さん方の協力によりまして、緑の羽根募金については森林づくり、まちづくりの環境緑化に役立てております。皆さんの家庭からいただいた募金は、一旦市役所の農林水産課にあります別府市緑化推進委員会に集められます。その後、社団法人大分県緑化推進センターに大分県下から集められます。市町村の緑化推進委員会が緑の羽根募金事業を行おうとするときは、大分県緑化推進センターに申請をしまして、その事業が認められれば交付金が交付をされ、事業が完了をすれば、写真や領収証を添えて報告をするという形になっております。また、市町村の代表が出席をしまして、大分県緑化センターの総会では、募金が幾ら集まったのか、どのように使われたのか、きちんと管理されているか、こういうことを審議をしております。平成17年度の別府市では、御存じかと思いますが、お正月の門松カードの配布を初め、桜の病気でありますテングス病の流行を防ぐために、「テングス病駆除実演講習会」というものを開催をし、またイベントでは12月24日に別府公園で行われております「わくわく農産物フェア」というものがございます。ここで苗木の無料配布をしております。また朝日小学校の皆さんで結成をいたしております「緑の少年団」の木工教室の活動費として活用させていただいております。

以上が緑の羽根募金についてであります。

○議長（小松礼奈さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 魚住健人議員の質問にお答えします。

毎年、皆さんの温かい気持ち、御理解と御協力をいただいて、多くの募金が集まっております。皆さん一人一人の大切な善意の集まりだと思っております。今、御指摘をいただいたように、また部長が答弁をいたしました。これからの募金がちゃんと納められて、管理されているのか、そして本来の目的にきちんと使われているのかと。そういうふう募金をしていただいた市民の皆さんから疑問を持たれないように、しっかりとまた大事に活用していきたいと考えております。募金を

行っている人はほとんどがお話があったようにボランティアなんです。そういう温かい気持ちを大事にしながら、今後とも募金活動に魚住議員も御協力ください。ありがとうございました。

○議長（小松礼奈さん） 19番。

○19番議員（魚住健人君） わかりやすく説明していただいてありがとうございました。これでぼくの質問を終わります。

○議長（小松礼奈さん） 次に、21番議員、青山中学校の後藤萌さんの一般質問をお願いいたします。

○21番議員（後藤 萌さん） 大分市で行っている敬老の日を設け、バスの値段を100円にするという取り組みがとてもよいなと思い、別府市でも同じようなことを子どもたちにしてほしいと思ったので、別府市の「こどもの日」の制定について質問します。

別府市は観光のまちで、観光客の方がたくさんいらっしゃいますが、私たち別府市民は別府に住んでいながら、別府について余りよく知りません。ですから休日を利用して別府をよく知る機会をつくり、別府のことを楽しめるようにしてもらいたいです。

たとえば、

1. 美術館や市営温水プールなどの市営施設の入場料をその日に限り無料にする。
2. なかなか生で聞くことのできない子ども向けのクラシックや古典芸能を鑑賞する機会をつくる。
3. 別府市民として別府を愛する心を育てる「別府再発見」のツアーを企画する。たとえば、別府の温泉のことがすべてわかる「別府温泉博物館」などを建てる。
4. 遊園地や動物園などの入場料をその日に限り市が補助金を出す。

などです。

それらを子どもたちだけでたくさん見学できるように、市内のバスが1日に何度も乗れる子ども向けの100円のパスポートをつくってはどうか。このような企画があれば別府の子どもたちは休日を楽しく別府で過ごせると思うし、別府のいろいろなことを知り、もっと別府のことが好きになると思います。

○議長（小松礼奈さん） 教育長。

○教育長（郷司義明君） ただいま後藤議員から本当に私たちの住んでいる別府を思う気持ちの質問をたくさんしていただきました。ありがとうございました。順を追ってお答えをしたいと思います。

まず、毎月1回「子どもの日」を制定したらいかがであろうかと。今、毎月1回、第3日曜日に「家庭の日」というものがあるのを御存じですか。家族皆さんと一緒に過ごして、その日1日の思い出をつくっていかうというようなことで制定をされておりますが、この「家庭の日」と今後藤議員から質問のありました「子どもの日」のことも併せて、これから考えてみたいと思っております。

そのときに市営の施設を無料にしていきたいと思いますということがございました。まず、美術館のことにつきましては、第3日曜日の「家庭の日」に家族で来られた親子については、無料になるように今手続きを取っているところでございます。多分そうなると思いますので、ぜひ利用していただきたいなと思っております。

それから、温水プールのことでございますが、このプールは年間の利用者が5万5千人以上という大変多くの方が利用して、しかも休みの日や日曜日にたくさんの方が利用しております。ということから、この温水プールを日曜日に無料開放するということは、むずかしいのかなと思っているところでございます。

次に、クラシックや古典芸能の鑑賞会のことでございますが、今別府市では6月と12月に市民交響楽団による定期演奏会や市民コンサートを開いております。行かれたことがございますか。また、そのコンサートを直接聞くだけではなくて、希望する小学校や中学校には交響楽団の団員の方々が直接学校に行って、皆さん方の前で演奏していただくというようなこともできるようになっておりますので、希望があればまたおっしゃっていただきたいと思います。

次に、古典芸能のことについてでございますが、今別府市では現在、古典芸能というものは行っておりません。しかし、民間の関係団体ですばらしい文化芸術を伝承しながら、活動しておる団体がございますので、こういった団体の方々と相談をしながら鑑賞できるように考えてみたいと思っております。

次に、「別府再発見ツアー」ということでございますが、今、中央公民館で行っ

ております。民間の団体でも竹瓦温泉付近の路地裏散策や鉄輪温泉散策など、各所で行っておりますので、また機会がありましたら参加してみたいと思います。

「別府温泉博物館」の建設につきましては、国やさまざまな関係機関などと十分協議しながら、今後取り組んでまいりたいと思っております。

最後に、遊園地などの入場料やバスの１００円のパスポートの件でございますが、大変貴重な御提案だと思っております。教育委員会だけでは到底決められないので、さまざまな方々としっかり協議していきたいと考えております。

○議長（小松礼奈さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 後藤萌議員の質問にお答えします。

今、教育長が答弁をいたしました。美術品とかクラシック音楽の鑑賞などについては、別府市の施設です。すでに前向きに取り組んでおりますので、そういった活動もありますからぜひ参加をしていただきたいと思います。

また、「温泉博物館」等の提言もありました。今、国の方にしっかりお願いをしておりますので、ぜひ実現したいなという気持ちです。

別府のよさを知るということは、非常に大切なことだと思いますので、もっとも充実できるように一生懸命努力していきたいと思っております。貴重な質問をありがとうございました。

○議長（小松礼奈さん） ２１番。

○２１番議員（後藤 萌さん） ありがとうございました。これで私の質問を終わります。

○議長（小松礼奈さん） 次に、２５番議員、浜脇中学校の篠田菜央さんの一般質問をお願いいたします。

○２５番議員（篠田菜央さん） 別府市はさまざまな自然に囲まれています。東には別府湾、西には大きな山々が連なっております。だから私たち別府市民はとても自然に恵まれていると思います。でもその自然の美しさが最近失われつつあるのではないかなと思うことがときどきあります。たとえば別府湾です。私たちの学校では遠足のときはスパビーチを利用することが多いのですが、そのとき海の汚れや捨ててあるゴミなどがとても気になります。ビンのかけらやガラス片なども落ちていて、浜を

素足で歩こうとすると非常に危険です。もちろん私たち別府市民は美しい自然のもとで暮らしたいと考えています。そのために自然を美しい形で残していくために、別府市はどんな取り組みを行っているのか、教えてください。

○議長（小松礼奈さん） 生活環境部長。

○生活環境部長（高橋 徹君） お答えいたします。

別府市では、かけがえのない自然や温泉資源を守り、すべての人々が自然とともに生き、環境にやさしい社会の実現を目指して、環境の保全に関する取り組みを総合的、計画的に進めるために別府市環境基本計画を制定しております。この計画を実行するためには、市民はもとより、事業者の皆様方すべての人々に御協力をしていただくとともに、連携が必要なことでございます。

今回、例に出されました別府湾の汚れについてでございますが、海に流れ込むゴミにつきましても、河川にポイ捨てされたゴミが大半でございます。河川に生活排水が流れ込むことや、ゴミを捨てることなど原因について考えてみますと、市としても市民の皆さん方や事業者の皆さんにゴミのポイ捨てや河川を汚さない啓発をし、自然環境を守り、ともに自然を育てていきたいと考えておりますし、今後ともそれらに関する事業に努力していきたいと思っておりますので、御協力のほどよろしく願いいたします。

○議長（小松礼奈さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 篠田菜央議員の質問にお答えいたします。

今、世界の各地で本当に大変な異変が起こっております。テレビや新聞でもうごらんになっていると思いますが、例を挙げますと二酸化炭素等のいわゆる温室効果ガスによる地球温暖化で、海水面が上昇してきているんですね。太平洋に浮かぶツバルという国で、満潮時には国土そのものが浸食されたということも出ました。別府市だけではなくて、地球規模の自然環境の保全をより進めなくてははいけませんし、未来の世代に自然を美しい形でしっかり残していくことが大事だと思っております。そのためには私たち一人一人が自然というものと調和をして生きていくということを実行に考えなくてははいけない、そういう行動をどうしたらいいのかということを実行に考えなくてははいけないと思っております。

今、別府市では自治会の皆さんを中心に、本当にボランティアといいますか、奉仕活動に頑張っていておまして、また川を守る運動とかそういうものがしっかり盛んにつくられております。河川を大事にするという取り組みですね。川が汚れないようにきれいにしていきたいと思いますというふうに取り組んでいただいておりますし、先日、全市一斉の奉仕活動にもたくさんの市民の皆さんの参加をいただきました。そして海岸一斉清掃のときにも2千人以上の人たちがスパビーチとかに夏祭の前にもたくさん出ていただきました。上人ヶ浜公園、関の江の海水浴場にと、本当に皆さん方のおかげで砂浜がきれいになりましたし、いろんな形で汚れた材木とかゴミがたくさん別府湾に打ち上げられているんですね、潮の流れによって。これを毎年、別府市民が自分たちの海岸をしっかりと守っていこうと、こういう気持ちで清掃活動に真剣に頑張っていておまして、身近にできることから始めようと、こういう気持ちがあることを本当にうれしく、感謝を申し上げますし、またそういったことが大変大きな力になって、これからは海岸だけではなくて、きれいなまち、うつくしいまち、これが実現できるのではないかなというふうな思いでございます。

篠田議員も自然環境を大事にするという今の気持ちを本当に大切に、私たちと一緒に行動していただきたいと思います。ありがとうございました。

○議長（小松礼奈さん） 25番。

○25番議員（篠田菜央さん） ありがとうございます。私たち市民一人一人の自覚も必要だと思いますが、別府市の取り組みも大きな鍵となっていると思いますので、これからの自然保護の活動に期待しています。これで私の質問を終わります。

○議長（小松礼奈さん） 次に、31番議員、中部中学校の佐藤大君の一般質問をお願いいたします。

○31番議員（佐藤 大君） ぼくはことしのゴールデンウィークに福岡県にある科学館に行きました。そこは学習を目的とした体験型の施設で、さまざまなゲームや実験をすることができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。またロボットと話したり遊んだりできる場所もありました。このように自分の目や耳で見て聞いて、体で体験できる施設があれば楽しく学習ができ、子どもたちの学習に対する意

欲も高まると思います。

1つ目の質問です。別府にも学習を目的としたこのような施設があればいいと思うのですが、市長はどのようにお考えですか。

2つ目の質問です。別府市立図書館にある本が少なく、資料自体も虫が食っていたり、落書きがあつたりと古く、必要な情報が得られにくいように感じます。別府市立図書館を充実させる計画はありますか。なければこの現状を市長はどのようにお考えですか。

○議長（小松礼奈さん） 教育長。

○教育長（郷司義明君） お答えいたします。

別府市では、ただいま佐藤議員が御指摘されたような体験型施設の建設計画というのは今のところございませんが、「少年自然の家・おじか」、佐藤議員も多分体験したと思いますが、そこではさまざまな体験活動、自然の中で十分な活動ができるような取り組みが今されております。また、各地区の公民館でも子ども広場だとか世代間交流事業を子ども向けで体験ができるように取り組んでおります。夏休みには絵画や図工の教室も行っておりますので、どうぞまた参加してみてはいかがでしょうかと思います。

また、各町内では、子ども会や青少年育成団体、または社会教育関係団体の中にもボーイスカウトや親と子の劇場などがいろんな体験活動を行っておりますので、またそれらも利用してみてはいかがでしょうかと思います。

次に、市立図書館の充実の件でございますが、今年図書購入費の予算を市長さんの取り計らいで大変多くの予算をつけていただき、たくさんの本が買えるようになりました。また佐藤議員が希望の本があれば、ぜひ図書館の方にお問い合わせをして申し出ていただければと思っております。

次に、今気軽に本の検索ができたり、貸出しできるようなシステムづくりを行っております。電算化というシステムですが、学校や公民館から検索をして、自分の好きな本を選べるというようなシステムができると思います。今、その作業を行っております。やがてできると思いますので、ぜひまたそういったシステムを利用してたくさん本を読んで、これからの佐藤議員の人生に役立てていただきたいと思います。

ております。

○議長（小松礼奈さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 佐藤大議員の質問にお答えいたします。

佐藤議員の貴重な体験を通して感じた学習に対する強い意欲、本当にうれしく思います。

ただいま教育長が答弁しましたように、別府市でも今、「少年自然の家・おじか」とかまた公民館等で皆さんが体験できるような活動というのを一生懸命考えております。ぜひ社会教育施設の活動内容をしっかり充実するように、これからも努めていきたいと思っております。ぜひ参加してください。

それから図書館の充実は、本当に言われるとおりでございます、十分だとは思っておりません。そして今、教育長が言ったように、電算化にして本が取り寄せしやすいように準備をして今とりかかっておりますから、もうすぐそういう形ができ上がりますので、この時期に皆さんが本当にしっかり本を読む一番大切な時期ですから、本を愛してしっかり読んでください。本当にありがとうございました。

○議長（小松礼奈さん） 31番。

○31番議員（佐藤 大君） ありがとうございました。これで別府市の子どもが楽しく学習できればいいと思っております。これで、僕の質問を終わります。

○議長（小松礼奈さん） 次に、28番議員、朝日中学校の安波さくらの一般質問をお願いいたします。

○28番議員（安波さくらさん） 別府には温泉や地獄などさまざまな観光資源がありますが、その一つの蒸し湯について質問があります。

蒸し湯はセキショウという葉を敷きつめた中に温泉の蒸気を入れ、サウナのように利用するようですが、この経営に欠かせないセキショウが不足していると耳にしました。

そこで、このセキショウを市内の学校などで栽培するということではできないでしょうか。蒸し湯のもととなるものを別府市全体でつくっていければいいなと思っています。このような取り組みは可能なのでしょうか、御意見をお聞かせください。

○議長（小松礼奈さん） 観光経済部長。

○観光経済部長（阿南俊晴君） お答えいたします。

セキショウの栽培ということでございます。鉄輪の蒸し湯は昭和45年に建設をされまして、35年が経過をして老朽化が進んでいるということから、現在隣の土地に建て替えをしております。新築されます鉄輪の蒸し湯は、石室がこれまで一つだったのが、男女別々になるということから、以前より広くなります。広くなるということはこれまでも増してセキショウの確保が必要になってきます。現在は県内の各地の山間部にあります溪流などに自生するセキショウを採取しまして使用しているという状況でございますが、年々減少しているという報告を受けております。市としましてセキショウの栽培につきましては、土地を確保しようと今現在、山間部の農家の方と交渉を行っております。このような中で安波議員さんの御質問、大変ありがたく思っております。セキショウは山間部の溪流に自生をするというものでございますので、学校で栽培が可能であるかどうか、調査研究を行いたいというふうに思っております。

○議長（小松礼奈さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 安波さくら議員の質問にお答えします。

鉄輪の蒸し湯の問題で質問をいただきました。鉄輪の蒸し湯は待望といいますか、長年の懸案でございまして、今月に完成をいたします。地元ですから楽しみにしていると思いますが、これはほかの議員さんにもぜひ知っていただきたいんですが、この鉄輪の蒸し湯というものは、鎌倉時代に一遍上人という方が開いたと言われております。非常に歴史の古い温泉でございまして、昔は石風呂と言われていたんです。そして石の釜の中に、先ほど出ましたセキショウを敷き詰めて、そして温泉の蒸気や噴気を利用する、そして床下からの蒸気浴、蒸気のおふろということです。新陳代謝とか発汗作用の中で、疲労回復を促進するという機能がありまして、これは大変に根強いファンが全国からたくさんの方がお見えになっております。もうすぐ完成をしますので、ぜひ皆さんも期待をしてほしいと思います。

別府市の観光資源である蒸し湯について、使用されているセキショウのことを心配いただいたことに本当にうれしく思います。私たちもこのことが一番心配でございまして、別府の温泉に必要なこのセキショウを学校で栽培できないか、この提案

をいただきまして、できるかどうか、できたら本当にすばらしいなと今思っております。ぜひ学校がセキショウの生育の環境に適しているかどうか、早速調査をさせていただきます。そしてできるということであれば、ぜひ検討していきたいと思いますので、本当にありがとうございました。よろしくお願いします。

○議長（小松礼奈さん） 28番。

○28番議員（安波さくらさん） 詳しい御意見をありがとうございました。これで私の質問を終わります。

○議長（小松礼奈さん） 次に、11番議員、朝日小学校の池田孝明君の一般質問をお願いいたします。

○11番議員（池田孝明君） ぼくはゴミについて質問します。

ぼくがゴミに関心を持ったのは、学校の登下校時、春木川を見て汚かったので、いやな気持ちになったからです。

そこで、インターネットで別府市のゴミの様子について調べてみました。すると、勝手にゴミを捨てる不法投棄があることがわかり、ひどい人がいるんだなと思いました。もっと調べてみると、平成16年の不法投棄は123件でとても多いと思いました。さらに、不法投棄されたゴミは税金で片付けられていることがわかりました。決まりを守らない人が捨てたゴミを税金で片付けるのはおかしいと思いました。

そこで、不法投棄をなくすにはどうしたらいいか、考えてみました。ぼくは看板を立てPRしたり、使い終わった電化製品を安くてもいいので買い取ったり、使える部品をリサイクルすればよいのではないかなと思いました。現在、別府市ではどのような不法投棄への対策をしていますか。また今後対策をする予定はありますか。以上、質問します。

○議長（小松礼奈さん） 生活環境部長。

○生活環境部長（高橋 徹君） お答えいたします。

別府市では、不法投棄に対しまして不法投棄禁止の看板を設置しているほかに、今年度は6月12日から18日まで、この期間にゴミの不法投棄監視ウィークとして、不法投棄の防止のための巡回パトロールを重点的に行いました。また郵便局の局員さんをお願いをしまして監視を行っていただいておりますが、市内の至る所で

ゴミの不法投棄がなかなかなくなるのが現実で、別府市でもその対策に困っているのが現状でございます。

不法投棄をなくすには、市民の皆様がむやみにゴミを捨てないよう、マナーやルールを守っていただくということが一番大切なことでございますが、市としましては市報やケーブルテレビなどを利用して、引き続き市民の皆さんに不法投棄をなくすような呼びかけを継続していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○議長（小松礼奈さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 池田孝明議員の質問にお答えいたします。

不法投棄、本当に困りますね。市民の皆さんが使ったものを、最後まで責任を持って正しく処理をするということを守っていただければ起きない問題なんですが、大変残念に思います。別府市で使い終わった電化製品を買い取るということはありませんが、テレビとか冷蔵庫とかエアコンや洗濯機、これは家電リサイクル法という法律で、いわゆる再生利用ということが義務付けられております。また、市民の皆さんが不要になったものについて、情報交換をする場として、今ホームページ上に「もったいないネット」を載せておりますので、自分では不要なものであっても、またほかの人が再利用する、欲しいというものもあります。そういうことでインターネットを使って再利用の輪が広がるということは、不法投棄を防ぐことにつながる、ゴミを減らすということにもつながるのではないかなというふうに思いますので、ぜひ利用してください。

池田議員には、本当に今後も物を大切にしようとするこの気持ちを大事にしてください。ありがとうございました。

○議長（小松礼奈さん） 11番。

○11番議員（池田孝明君） ありがとうございました。これで私の質問を終わります。

○議長（小松礼奈さん） 次に、12番議員、石垣小学校の後藤健太君の一般質問をお願いいたします。

○12番議員（後藤健太君） ぼくは、山や海があり、温泉も気持ちいい別府のまちが大好きです。観光地としても有名ですが、まだ整備されていない道路がたくさんある

と思います。家の近くを散歩していると、歩道の段差が15センチメートルあったり、歩道にある標識や電柱が邪魔になります。雨の日は道のくぼみに水がたまり、歩行者が車の水はねで濡れることがあります。たまに車イスの方を見かけますが、歩道の段差でやむを得ず車道を通っている姿を見かけます。温泉地では温泉の蒸気で側溝の鉄のふたが錆び、危険なところがあります。鉄ではなく錆びないコンクリートなどにはできないでしょうか。そして安全に配慮した道路の整備をしてもらえないでしょうか。たとえば歩道と車道の完全分離や、歩道の段差解消など、安全で人にやさしい道路づくりをしてもらえないでしょうか。そしてだれもが住みたい、住み続けたいと心から思えるまちにしたいです。

○議長（小松礼奈さん） 建設部長。

○建設部長（金澤 晋君） お答えをいたします。

市街地で歩道の段差のある箇所や舗装の状態の悪い箇所が幾多見られます。そこで、建設部といたしましては、平成12年に制定されました交通バリアフリー法が目指すところであります高齢者、障がい者等、だれもが安心して歩ける道路の整備に向けて、すでに北浜周辺地区、青山通り、べっぷアリーナ周辺の整備を終えておるところでございます。

現在、石垣地区でございますが、これは餅ヶ浜中津留線と申しまして、中部中学校南側の市道でございます。それから鉄輪地区などの道路整備を行っているところございまして、また石垣地区におきましては、特に交通事故の減少を目指した安心歩行者エリア区域として国の指定を受けまして、歩道の段差の解消、交差点の道路標示、スクールゾーンのグリーン路面の表示、カーブミラーの設置等の整備を行いまして、歩行者が安全で快適な空間を確保できますよう今年度から取り組んでいるところでございます。

今後とも後藤議員の御指摘のように、安全で人にやさしい道路整備を進めていきたいと思っているところでございます。

○議長（小松礼奈さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 後藤健太議員の質問にお答えをいたします。

別府のまちが大好きで、だれもが住みたい、そして住み続けたいと心から思える

別府にしてほしいという後藤議員の別府を愛する気持ち、本当にうれしく思います。後藤議員の質問のとおり道路の問題というのは、市民の皆さんが毎日使っているわけで、身近な問題だと思います。道路のくぼみとかまた側溝のふたが破損しているという危険な場所については、放置すれば事故が起こる原因になりますので、もしそのような場所を発見したら、学校の先生またはお父さんやお母さんに相談して、市役所にすぐ連絡をしてください。高齢化社会を迎える中で、だれもが安心して活動し社会参加をするためには、安心して歩ける歩道、そして道路空間の整備が重要でございまして、今これは別府市の重要課題というふうに位置づけておりますので、今後とも人にやさしい道路整備をしっかりと進めていきたいと思います。貴重な質問ありがとうございました。

○議長（小松礼奈さん） 12番。

○12番議員（後藤健太君） だれもが安心して使える道路にしてもらえることを期待しています。これでぼくの質問を終わります。

○議長（小松礼奈さん） 次に、9番議員、亀川小学校の山口拓朗君の一般質問をお願いいたします。

○9番議員（山口拓朗君） ぼくは竹細工のことについて市長さんに質問があります。

ぼくが小さいころ、祖父が趣味でよく竹細工をつくっていました。細い竹を1本1本編んでいき、最後にはきれいな形の花籠ができていく様子にとっても感動したのを今でも覚えています。しかし、この別府にはそんなすばらしい竹細工を受け継いでいく若い人がとても少ないと聞きました。このままだと大分県で唯一伝統的工芸品の指定を受けている別府の竹細工がなくなってしまうです。

そこで、市長さんに質問があります。若い人が竹細工のよさを知るために別府市ではどのような取り組みをしていますか。また、今後予定されている新しい計画があったら教えてください。

○議長（小松礼奈さん） 観光経済部長。

○観光経済部長（阿南俊晴君） お答えいたします。

山口議員御指摘のとおり別府の竹細工は大分県で唯一の伝統的工芸品の指定を受けております。伝統工芸士を初めとする竹細工職人が制作したすばらしい作品の

数々は、国内だけではなく海外でも高い評価を受けております。しかし、その一方で竹細工職人の高齢化が進んでいるということから、別府竹細工の技術を受け継ぐ若い後継者の育成も今大きな課題となっております。

別府市では、別府竹細工のすばらしさや芸術性、また実用性を多くの人に広く知ってもらうための施設であります東莊園町にあります「別府市竹細工伝統産業会館」を拠点に、毎年後継者を育てるための展示会や竹細工をつくる楽しさを体験する初級、中級、上級の3段階に分けた竹の教室を定期的を開催しております。今後も多くの人に竹細工のすばらしさを体験してもらうため、会館見学者に対する竹の体験学習、竹の教室の内容をよりすばらしいものにするとともに、後継者育成のため竹細工の組合関係者と協力をして、別府竹細工がますます盛んになるよう今後取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議長（小松礼奈さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 山口拓朗議員の質問にお答えいたします。

部長が今、答弁したように別府の貴重な財産です。竹細工というのは、伝統的工芸品として今、国内外にも本当に高い評価を受けております。別府市としても竹細工に関する情報を全国、世界に発信をしていくということで、どのような作品を今市場が求めているのかということもしっかり研究していますが、情報の収集にも今努めています。

伝統的工芸品としての別府竹細工のよさ、その品質をさらに高めて、併せて後継者も育てなくてはいけないということも今課題になっております。山口議員のような若い人が、こんなにも別府の竹製品、竹細工に興味を持ってくれているということに感動をいたしました。恐らく竹細工の職人の皆さんもこのことを聞くと大変喜ぶのではないかなと思っております。

質問にありました小中学生を対象とした竹の教室、これもぜひ関係者と話し合い、夏休みなどに体験学習などが可能かどうか、ぜひこれは検討したいと思っております。そのときはぜひ山口議員も参加してください。

別府の竹細工を思う気持ち、本当にありがとうございました。大切にしてください。

○議長（小松礼奈さん） 9 番。

○9 番議員（山口拓朗君） ありがとうございます。「愛・地球博」にも出展された別府の竹細工をなくしていけないと思います。これでぼくの質問を終わります。

○議長（小松礼奈さん） 次に、23 番議員、北部中学校の山本伊吹君の一般質問をお願いいたします。

○23 番議員（山本伊吹君） 先日、楠港跡地のゆめタウン開発の計画についてテレビや新聞でみました。とても大規模なもので、駐車場も広いし、多くの店も入っているようで、別府のまちの活性化も進むと思うので、この計画は楽しみです。

しかし、私たちの地元の亀川にも昔ながらの店やすてきな店があります。亀川だけではありません。別府にはほかにもすばらしい商店街があります。別府に大きくて便利なショッピングモールができることはいいと思うのですが、こうした商店街も別府の伝統の一つだと思います。だからショッピングモールと商店街の両方が活性化し、もっとよいまちをつくるためのよい案はありませんか。

○議長（小松礼奈さん） 観光経済部長。

○観光経済部長（阿南俊晴君） お答えいたします。

今回の楠港埋立地への企業誘致につきましては、別府市の中心市街地活性化を図るための起爆剤として期待をいたしておりますが、山本議員御指摘のように経済の活性化を必要としているのは中心市街地だけはないということでございます。

別府市内には21の商店街がございます。そのうち中心市街地には旧商店街、また郊外には山本議員の地元、亀川商店街を含めまして12の商店街がございます。それぞれの商店街が活性化をするよい案はないかという御質問でございますが、商店街を含めた地域の皆さんがどのような地域づくり、またはまちづくりをするかを皆さん方で考え合うことが大切なことというふうに思っております。もちろん行政も一緒になって地域に合ったまちづくりに取り組んでいきたいというふうに思います。行政と地域の皆さんが一緒になって、豊かな地域社会を育てることにより、暮らしよいまち、また個性あるまちとなり、商店街が商店街として輝き、そして地域の経済も活性化するものと考えております。今後ともこのような取り組みを続けていきたいと考えておりますので、御理解をいただきたいと思います。

○議長（小松礼奈さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 山本伊吹議員の質問にお答えします。

楠港埋立地の問題で質問をいただきました。商業施設用地としてこれは平成4年に埋め立てられて、以来13年間有効利用ができなかったわけですが、このたび別府市の中心市街地の活性化を図るということで、その核として大型の複合商業施設「ゆめタウンべっぷ」の誘致が決まったわけですが、来年秋には完成をいたしますので、ぜひ御期待をしていただきたいと思います。

そして、商店街の活性化のためによい案はないのかという質問も併せていただいております。この質問に対して、今全国的に大型店が進出をしたということで、経済が低迷をしている、商店街が本当に衰退をしてその再生をどうするのかということが大きな課題に、これは全国的に問題になっております。そういう意味でまず商店街の方々が行政と一緒に、どうすれば大型店とは違う地元の商店街としてまたよさを発揮できるか、このことを真剣に話し合いをしなくてはならないと、こう思っております。考え合うということが大切だと思っておりますので、別府市内には今、御指摘の亀川商店街を初めとしてたくさんの商店街、すばらしい商店街、歴史があります。そういう意味でそれぞれの商店街が今一生懸命努力しております。特色のある、ここでは国際通りにしようとか、ここでは骨董品の市をやろうとか、この前のまつりの中でも本当に商店街が頑張っているいろんな試みをしていただきました。各商店街の皆さんが活性化に向けて意見交換をしていくということ、このことが大事ではないかなと思いますし、歴史と伝統があるわけですから、そういうものをしっかり大事にしながら商店街の特色にあった、輝きのある商店街づくり、まちづくりを行政がしっかり応援をしたいと思っておりますので、そういう意味で一緒に考えていきたいなとこのように考えております。貴重な質問をありがとうございました。

○議長（小松礼奈さん） 23番。

○23番議員（山本伊吹君） 詳しい御説明をありがとうございました。これで私の質問を終わります。

○議長（小松礼奈さん） 次に、17番議員、東山中学校の相原雅士君の一般質問をお願い

いたします。

○17番（相原雅士君） 観光客が捨てる東山のゴミについて質問します。

東山幼・小・中学校では、4月の歓迎遠足でクリーングリーンというゴミ拾い活動をしています。鳥居から神楽女湖までの道路沿いをしています。そのときに観光客が捨てたと思われるゴミがゴミ袋で15袋程度回収できます。

近年、東山は県内外から多くの観光客が訪れ、観光地別府の一翼を担うようになってきていますが、平気で車の窓からゴミを捨て、東山を汚して帰る観光客が増えていることに対して、強い憤りを感じます。また、そのゴミの中には多くの投げ捨てたタバコが含まれています。豊かな自然に囲まれた東山ですが、観光客の投げ捨てたタバコの火が草木に引火し、火事になることも十分に考えられます。東山の自然を守るためにも、別府市ではどのような対策を考えておられるのか、その考えをお聞かせください。

○議長（小松礼奈さん） 生活環境部長。

○生活環境部長（高橋 徹君） お答えいたします。

ゴミのポイ捨ては本当に困った問題であります。幾ら清掃をしてもゴミが捨てられて、なかなかなくなるというのが現状でございます。この対策としまして、不法投棄されたゴミの清掃を行ってきれいにする事で、ポイ捨てしにくい環境をつくっていかうという清掃活動をやっているところでございますが、なかなか現状では追いついていないというのが現実でございます。今後とも広報活動として市報やケーブルテレビなどを使いまして、いろいろな機会を通じてゴミの投げ捨てを防止する呼びかけをしていきたい。そしてマナーの向上につなげていきたいと考えております。今後とも市民の方々に協力してもらいながら、東山を初め、別府市のうつくしい自然を未来の世代に引き継いでいきたいと考えております。

○議長（小松礼奈さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 相原雅士議員の質問にお答えいたします。

東山の美しい自然を守ろうということで、東山幼・小・中学校の皆さんがクリーングリーンというゴミ拾い活動の展開をいただいております。本当にありがとうございます。うれしく思います。皆さんが一生懸命ゴミを収集されている姿が目につ

かびまして、本当にうれしさをいっぱいでございます。

現在、多くの観光客や別府市民が神楽女湖の花菖蒲を初め、自然の魅力に惹かれて東山にたくさんの人が訪れております。相原議員の御指摘のようにゴミの投げ捨てが見られるということを私も残念に思いますし、美しい自然が台無しになっています。本当に残念だと思います。この対策として、今ゴミのない、いわゆる美しい自然を守るんだという強い気持ちを観光客の皆さんまた市民の皆さんにもしっかりと訴えながら、ゴミのポイ捨てをする人がいなくなるように、そして美しい自然をしっかりと守るんだと、こういうふうに市民の皆さんの奮起、そしてまた別府市としても清掃活動に対しまして、しっかりと推進をして頑張っていきたいと思っております。皆さんも一緒に頑張ってください。本当にありがとうございました。

○議長（小松礼奈さん） 17番。

○17番（相原雅士君） ありがとうございます。これでぼくの質問を終わります。

○議長（小松礼奈さん） 以上で、一般質問を終わります。

休憩いたします。

午前10時38分 休憩

午前10時52分 再開

○副議長（橘 里実さん） 再開いたします。

日程第5により、提言の発表を行います。発表者は、12名です。提言順位により、発表をお願いいたします。

最初に、10番議員、上人小学校の平野沙彩さんに提言の発表をお願いいたします。

○10番議員（平野沙彩さん） 私は、みんなが使えるような公園をつくってについて提言します。

私の住んでいる上人校区には余り公園がありません。上人ヶ浜公園はありますが、交通量の多い国道10号を渡っていかなければなりません。アスレチックベンチという健康によいものはあるけれども、遊具はブランコしかありません。遊具が増えると私たち子どもも遊びに行く人がふえると思います。また、バリアフリーのところもあるけれども、段差があるところもあるので、車イスの人やベビーカー

を押している人にとっては動きにくそうです。お年寄りが安心して散歩をしたり、小さな子どもが楽しく遊べる遊具など、だれもが安心して過ごせる公園をつくってほしいと思います。

新聞で別府市内の公園が次々にリニューアルしているという記事を見ました。上人校区の公園もよくしてほしい。別府市内にだれもが安心して遊べる公園をたくさんつくってください。

○副議長（橘 里実さん） 次に、18番議員、東山中学校の佐藤早紀さんに提言の発表をお願いいたします。

○18番議員（佐藤早紀さん） 東山は山間の豊かな自然に恵まれたすばらしいところです。近年、道路や観光地が整備され、県内外から多くの人々が東山を訪れるようになりました。多くの人々が東山を訪れ、東山を知ってくれるのはとてもうれしいことです。観光客が増えれば増えるほど豊かな自然がゴミで汚されているように思えてなりません。4月に東山幼・小・中学校でゴミ拾い活動を行いました。そのとき、大量のゴミが集まりました。また、総合的な学習で山や川に行くと、不法に捨てられた粗大ゴミなどがあります。交通が整備され車で山間まで行きやすくなったのはよいことですが、人目につきにくい場所にゴミを捨てるなど許される行為ではありません。このままゴミで東山が汚されていけば、豊かな自然を求め訪れた観光客に悪い印象が残り、観光地別府にとってもマイナスのイメージになると思います。自分のゴミは自分で持って帰る、ゴミはゴミ箱に捨てる、ポイ捨てをしないなど、豊かな自然を守るための活動が大切になり、また看板やゴミ箱の設置なども有効になってくると思います。

まずは別府市民一人一人が豊かな自然と観光地を守り、ゴミを捨てないよう心がけていくことが大事だと思います。また、自然環境の保護に力を入れたまちづくりを行っていただきたいと思います。

これで私の提言を終わります。

○副議長（橘 里実さん） 次に、14番議員、緑丘小学校の井上裕理さんに提言の発表をお願いいたします。

○14番議員（井上裕理さん） 私は別府市の桜並木について提言します。

緑丘小学校は春になると桜の花に囲まれたとても美しい学校です。家の回りを見渡しても桜の木が多く、別府はとても美しいまちだと思います。私はこんな別府が大好きです。しかし、私が歩道を歩いていると、小さな桜の木が枯れている。桜の木をなぜ植え替えないのかと思いました。私の家の近所の木はテングス病という病気にかかっていると近所の人から教えてくれました。そのテングス病は最初は1本の枝が病気にかかるそうです。その枝をそのままにすると、その桜の木全体にテングス病が移り、病気になった桜の木が死んでしまうそうです。その病気を防ぐには予防が必要です。その木をテングス病にならないよう市できちんと消毒してほしいと思います。それでもソメイヨシノがテングス病にかかり、植え替えをしなければならなくなったときは、里桜に植え替えてほしいです。鶴高通りを通ったときに、里桜がソメイヨシノより色が濃くてきれいだったからです。私は別府を湯のまちと桜の美しいまちにしたいと心から思っています。

○副議長（橘 里実さん） 次に、26番議員、浜脇中学校の麻生卓矢君に提言の発表をお願いいたします。

○26番議員（麻生卓矢君） ぼくは活気あふれるまちづくりについて提言します。

先日、ぼくが夜7時過ぎに買物に行ったときに、店が閉まっていました。いつも部活が6時半過ぎまであるので、店に行けない日もたくさんありました。そのときぼくはもう少し遅くまで開いているといいなと思いました。しかし、働く人たちのことを考えると夜は店が閉まってしまうのは当然のことです。

そこでぼくは考えました。従業員の人の数が多ければもう少し遅くまで店が開けられ、みんなが利用できるのではないのでしょうか。最近、ニュースでニートと呼ばれる仕事に就かない若者が増えてきたと聞いたので、情報誌などで若者たちに対するお知らせをして、多くの人々の就職の機会を増やせば従業員の数が増え、店の営業時間も長くできると思います。そして活気あふれる別府市になればいいなと願っています。

○副議長（橘 里実さん） 次に、15番議員、大平山小学校の早田明日香さんに提言の発表をお願いいたします。

○15番議員（早田明日香さん） 緑いっぱいの別府。

私の学校の校区内には扇山があり、学校の窓からたくさんの緑が見え、グラウンドに出るとどこを見ても一面が緑に染まっています。私は緑を見るとなんだかほっとします。植物には空気をきれいにしたり、気分を良くしたりする力があると聞きました。別府市で緑のカーテンづくりや一人一鉢運動のように身近なところから緑を育てる取り組みができないでしょうか。そうすれば緑のすばらしさにみんなが気づいて、緑を大切にする気持ちがもつともつと出てくると思います。私は緑を大切に、もっとたくさんの緑を増やして、きれいな別府の山ときれいな別府のまちにしてほしいと考えています。

○副議長（橘 里実さん） 次に、16番議員、東山小学校の甲斐雄貴君に提言の発表をお願いいたします。

○16番議員（甲斐雄貴君） ぼくは東山に投棄されるゴミから見た別府の環境について提言します。

別府の自慢は、前面に広がる別府湾、後ろに大自然の山々、そして日本一の温泉、でもその自慢の一つの自然が危機に陥っていると思います。私たちは毎年クリーングリーン活動をしています。それなのにゴミは全然減らず、逆に増えてきているのです。それもガードレールの後ろや崖の下などみんなが取りにくいところや、取れないところに捨てられているのです。そういうところに捨てるということは、悪いことをしたという気持ちがあるんだと思います。捨てる人には悪いことをしたと悔い改めてほしいのです。冷蔵庫や自転車、テレビ、電子レンジまでありました。まだ使えるものもありました。お金を使いたくないからといって家から持ってきて捨てるのはいけないと思います。ゴミを捨てたらきれいな自然も台無しです。それに川なども汚れてきて、住んでいる生き物たちがいなくなってしまう。東山に住んでいる私たちが気をつけてもどうにもなりません。東山の自然は住んでいる私たちだけのものではないと思っています。別府の自慢、大きな自慢だと思っています。どうか大切にする心を忘れないでください。そのためのまちづくりを行っていただきたいと思います。

これでぼくの提言を終わります。

○副議長（橘 里実さん） 次に、24番議員、北部中学校の橋本麻由さんに提言の発表

をお願いいたします。

○24番議員（橋本麻由さん） 私は横断歩道について提言します。

横断歩道を渡る時間が短いところがあります。特に短いところは20秒のところもあります。横断歩道の長さにもよりますが、私の知っている20秒のところは道幅がとても広いので、20秒ではとても渡り切れません。私のような健常者で渡り切れないのなら、障がい者の人はもっと渡るのがむずかしいと思います。私の住んでいる場所は太陽の家があるので、横断歩道を渡る時間も十分にあります。別府が健常者にも障がい者にもやさしいまちであってほしいので、道幅と渡る時間についてもう一度見直してほしいと思います。

○副議長（橘 里実さん） 次に、20番議員、山の手中学校の谷村優香さんに提言の発表をお願いいたします。

○20番議員（谷村優香さん） 私は別府の環境問題について提言します。

別府は植物も多く、温泉もあり、大変自然に恵まれています。私の中学校の近くにも別府公園という大きな公園があります。別府公園は木々がたくさんあり、四季によって異なるきれいな花が咲き、私も中学校の部活で使用したり、市民の方たちも多く利用したりと、私たちの生活に欠かせない場所になっています。しかし、ここ数年でそんな別府の豊かな自然が私たち別府市民の手によって壊されているように感じる場合があります。それは毎週ゴミの日の朝、学校に来ると校門の周りにゴミがたくさん散っていることです。ゴミ出しのルールを守らず、前日からゴミを出し、ネコやカラスがこのゴミをあさっているようです。毎回、私たちがゴミを拾ったりしていますが、そのようなことがほかの地域でもあるのではないのでしょうか。きれいで住みやすい別府をつくっていくには、私たち一人一人の日頃の小さな心がけが大切なのだと思います。

○副議長（橘 里実さん） 次に、13番議員、春木川小学校の梶谷啓典君に提言の発表をお願いいたします。

○13番議員（梶谷啓典君） ぼくは、月に何度か友だちと近所にある温泉「かっぱの湯」に行きます。そこでは、いつもは言えない悩み事などを話します。また、友だちのいいところ、おもしろいところを発見できる場所でもあります。そんな温泉が

ぼくは大好きです。

そこで、ラクテンチに家族風呂をつくることを提案します。

古くから別府のシンボルとも言えるラクテンチは、別府のまちを見下ろせるとても景色のいいところです。動物を見たり乗り物に乗ったりした後に、家族や親類、友人、おじいちゃん、おばあちゃんなど入り、背中を流しながらきれいな景色を見ると心が和むはずです。しかもそうすることでラクテンチに来るお客さんも増えると思います。

ぼくが中学生になってこんな温泉ができれば、友だちはもちろん、たまには両親と来てふだんの苦労をねぎらい、背中を流してあげたいと思います。

○副議長（橘 里実さん） 次に、8番議員、鶴見小学校の姫野晃輔君に提言の発表をお願いいたします。

○8番議員（姫野晃輔君） ぼくは交通安全施設について提言します。

ぼくたちの鶴見小学校区は、狭い道やカーブ、交通量の多い道ばかりです。そんな家や学校の近く、またほかの別府市の道を通っていて気がついたことがあります。

1つ目はカーブミラーのことです。道を歩いていて、車が来ているかどうか確かめようとしたときに、カーブミラーが設置されていなかったり、設置されていても折れたり落書きで見えなかったりしているものがあります。

2つ目は歩道です。通学路でぼくたち小学生や幼稚園児、中学生が通るのに歩道がないところがあり、歩いていて危険です。また、歩道があっても車がはみ出して停まっているため、車道に下りなければならないところもあります。警察のパトロールでも注意してくれません。

以上、特にぼくたち歩行者の立場からの交通安全施設を見直し、別府市を事故のない安全なまちにしてほしいと願っています。

○副議長（橘 里実さん） 次に、4番議員、南小学校の川崎菜摘さんに提言の発表をお願いいたします。

○4番議員（川崎菜摘さん） 私は別府の観光について、考えを述べたいと思います。

ことしのゴールデンウィークに国道10号がいつも以上に渋滞していました。中には里帰りの方もいたと思いますが、その多くは大分市にある「うみたまご」や

「高崎山」などの観光地、パークプレイスやわさだタウンなどのお店に行く人たちによるものでした。実は私もその中の一人でした。私はこの別府にももっとたくさんの人が集まり、楽しめる場所があればいいなと思っていました。

そんなとき、別府の楠港跡地に商業施設ができるのが決まったという話を聞きました。かわいい洋服が置いてあるお店や、おいしいものが食べられるお店ができるのはもちろんうれしいですが、小さな子どもからお年寄り、家族連れ、飼っているペット、そして別府以外に住んでいる観光客の方も楽しめる施設であってほしいです。そのためには別府にある温泉をぜひ生かしてほしいと思います。たとえば、ペットと一緒に入れる温泉や足湯、気軽に温泉で手を洗えるなどの施設があればと思います。

ことし、私は修学旅行に行きました。長崎や佐賀での歴史や文化、平和などの学習、ホテルで友だちと過ごしたことなど、楽しい思い出ができました。

そこで、別府にも修学旅行生が温泉のことを学べる温泉資料館などの施設があればよいのではないかと思います。

また、それぞれの学校にプールがあるように、それぞれの学校に温泉があればそれを利用してもらい、ほかの県の小学生とも交流が生まれるのではないかと思います。

新しい施設はもちろん、昔からある商店街、魚屋さん、八百屋さん、洋服屋さんが共存共栄し、別府市民から愛されるまち、観光客から喜ばれるまち、そんな別府のまちであってほしいと思っています。

○副議長（橘 里実さん） 次に、6番議員、青山小学校の秋本麻衣さんに提言の発表をお願いいたします。

○6番議員（秋本麻衣さん） 私はゴミのない美しい別府をつくるにはについて提言します。

温泉で有名な別府は、外国からの観光客も少なくありません。別府のことを知って観光に来てくれるのはうれしいですが、道では犬のふんやゴミが目立つので、気持ちよく思っていないのではと心配です。住んでいる私たちもゴミを見るといい気持ちがしません。

以前、私は学年全体で学校内や学校の周りをきれいにする清掃活動をしました。でも、学年がかわると休み時間に校内を掃除することや、近所のゴミ拾いも辞めてしまいました。それからまたゴミや犬のふんが増えて、もとに戻ったように見えました。

ゴミのない美しい別府をつくるには、ゴミを捨てないということもそうですが、ゴミが落ちているのを見つけたら拾うということも大切なので、市内の清掃活動をもっと増やした方がいいと思います。一人一人の意識が変われば、もっと美しい別府を見てもらえるとと思います。みんなで呼びかけをして清掃活動をしてはどうでしょうか。

これで私の提言を終わります。

○副議長（橘 里実さん） 以上で、提言の発表を終わります。

次に、日程第6「議員提出議案第1号 子ども宣言について」を議題（ぎだい）といたします。

提出者の27番議員、朝日中学校の大城慶太君から、提案理由の説明をお願いいたします。

（27番・大城慶太君 登壇）

○27番議員（大城慶太君） 子ども宣言。

議員提出議案第1号は、お手元に配付しております宣言書を読み上げて、提案理由の説明にかえさせていただきます。

未来に夢広がる街べっぷ子ども宣言

僕たちは今日、この子ども市議会で大切なふるさと別府について、真剣に考えました。

日本でも有数の豊富な温泉、海、山に囲まれた自然の恵み、伝統工芸の竹細工など、別府市が誇れるたくさんの財産を大切にしたいと思いました。

そして、別府市民の一人ひとりが、この街を大切に思い、大好きな自分の街として誇りを持ち、日本国内はもちろん、海外からもお越しいただく観光客の皆様を笑顔で迎え、温かいおもてなしを心がけていきたいと思っています。

そして、ここに以下のことを約束して実行していくことを誓います。

1. 美しい町をつくるために、まずは自分の学校から日頃の掃除を一生懸命して、地域の環境美化に役立っていきます。
2. 別府が日本有数の温泉地であり続けられるように、資源をムダ使いせず、温泉を大切にしていきます。
3. 別府にお越しいただくお客様にあいさつかできる学校、歌声が響く学校を目指し、おもてなしをしていきます。

以上、宣言いたします。

平成18年8月1日

べっぷ子ども市議会

何とぞ、議員の皆様方の御賛同をよろしくお願い申し上げます。

○副議長（橘 里実さん） ただいま提案されました「議員提出議案第1号子ども宣言について」に、賛成の皆さんの起立をお願いいたします。

[賛成者起立]

○副議長（橘 里実さん） 起立全員です。

よって、「議員提出議案第1号 子ども宣言について」は、全員一致をもって可決されました。

以上で、議事の全てを終了いたしました。

これをもって、第4回「べっぷ子ども市議会」を閉会いたします。

お疲れさまでした。

午前11時32分 閉会

閉 会 式

- | | |
|----------------|-------------|
| 1. 市議会議長あいさつ | 永 井 正 市議会議長 |
| 2. 市 長 あ い さ つ | 浜 田 博 別府市長 |
| 3. 記 念 品 贈 呈 | 郷 司 義 明 教育長 |
| 4. 子ども議員代表者謝辞 | 熊 本 恵 里 議員 |

[閉 会 式]

○市議会事務局主事（後藤真由美さん） それでは、ただいまから、第4回「べっぷ子ども市議会」の閉会式を行います。

まず、最初に、永井正市議会議長より、ごあいさつを申し上げます。

○市議会議長（永井 正君） きょうは十分に自分の意見を言うことができたでしょうか。また思ったとおりの答弁が返ってきたでしょうか。

子ども議員の皆さん方は、きょうの日のために相当な準備をしたと思いますし、またきょうの本番では大変緊張したことと思います。質問作成に当たっては、まず自分の周りで困っている問題はないかと注意深く見たことでしょうか、またそのことについてどうすれば解決ができるのか、いろんな人のお話を聞いたことと思います。その過程が実は大変重要なことであります。議会とはだれかのために考えるということでもあります。だれかを助けるためにみんなが考えて、一緒に協力をするということはとても大事なことです。困っていることを見つけるということは、すでに問題を解決する力の半分くらいに到達をしております。ですから、周りのことに関心がない、これが一番だめなことだというふうに思います。

私たち大人は、皆さん方を責任を持って育てていかなければなりません。そのために今できることを精いっぱいしなければならぬと思っております。

そして、皆さん方も、ぼく達が、私たちが別府を楽しく、暮らしやすいまちにするんだと、そんな気持ちを持ってほしいのであります。そのために私たちはこの子ども市議会を継続しています。

皆さんもきょうこの子ども市議会に参加したということを一生忘れないと思います。また、きょうの皆さん方の質問を聞いていまして、別府に住み続けたいというふるさとを思う気持ちがひしひしと私どもにも伝わってまいりました。私たち大人の議員ももっと頑張らねばいけないなと思ったほどであります。

きょうは本当に御苦労さまでした。皆さんとお会いできてよかったと思っております。また、先生方、PTA、市子連の皆様、ありがとうございました。おかげさまで所期の成果を納め、第4回べっぷ子ども市議会を無事終了することができました。ここから感謝を申し上げまして、お礼のごあいさつといたします。ありがと

うございました。（拍手）

○市議会事務局主事（後藤真由美さん）　続きまして、浜田博市長より、ごあいさつを申し上げます。

○別府市長（浜田　博君）　大変お疲れさまでございました。本当にありがとうございました。

小学生と中学生によるべっぷ子ども市議会、私が市長に就任して始まったと思いますが、ことしでちょうど4回目になりました。すっかり定着をして、また恒例となったと思います。

先ほど、平松子ども会会長さんからお話を聞いたんですが、昨年だったと思いますが、別府の子ども市議会が全国の子供会新聞に載ったそうです。これが全国のモデル、本当に素晴らしい市議会ですよという宣伝がありました。まさに日本一のべっぷ子ども市議会になったのではないかなという、うれしい誇りを持っております。

そしてまた、ことしも素晴らしい子ども市議会になりまして、私自身本当に感動いたしました。とりわけ質問も本当に皆さんの視点ですばらしいするどい質問もありましたし、また皆さんでなければ気がつかないなという思いの質問、提言がありました。きょう、質問の皆さんにはしっかりお答えすることができましたが、提言された皆さんにも後で必ず文書でしっかりとすばらしい提言に対しましての意見なり感想なりお答えをしたいと、こうお約束をいたします。

この質問をちょっと振り返って私もメモしてみましたが、質問と提言、素晴らしいですね。別府の将来展望ということで、観光の中心となるシンボルづくりとか、商店街づくりとかまちづくり、こういった視点の質問もあったし、また温泉以外に観光に活用できる資源や計画はないのかといった展望、全体を見ると「資源」という言葉に集約をされるのではないかなと思います。たとえば、別府の財産である自然を美しい形で残すためにという質問もありました。そしてゴミのない美しいまちづくりにはどうするか。また別府の桜、緑の提言もありましたね。これも美しい資源の一つだと思っています。また国際交流の件も話題になりました。私もお答えしたように、今別府市内では3つの大学の中で世界の77の地域、国から2,500人、すごいですね、この人数の留学生の皆さんがともに学び、生活をして、そして今や別府市は日本有数の異文化あふれる国際交流都市になっているわけでございま

す。これも人的な資源の一つだというふうにとらえることができますと思います。

また、竹細工のよさを広め、残す方法はないか。伝統的文化を世界に情報発信する必要があるということを、私自身も改めて認識をさせていただきました。伝統というのもこれも資源なんですね。

さらに不法投棄、ゴミの問題もたくさん出ましたね。資源にも限界があります。心ないゴミの投げ捨て、ポイ捨ての問題が出ました。自然が台無しになることがないように、市民が心を一つにしていかななくてはならないと思っております。一方で新しい資源をつくることの大切さの提案もさせていただきました。環境の問題、そして環境にやさしいエネルギー開発の重要性もご披露いただきましたし、また蒸し湯の問題も出ましたね。蒸し湯で使用するセキショウの栽培を学校でできないのかなという提案もありました。本当にうれしく思いました。この8月には新しい鉄輪の蒸し湯が完成・オープンをいたしますので、ぜひ御期待をいただきたいと思います。

一般質問や提言を通じまして、皆さん方が別府のよさを知って、そして発見をし、よりすばらしいものにしたいと、こういう思いが伝わってきました。別府に住む私たちが別府を愛することが一番大切なんだということを、お互いに認識できたと思っております。このような質問、提言の内容を集約して、また象徴した、未来に夢広がるまち・べっぷ子ども宣言、一字一句聞きながら本当に感動いたしました。

きょうは皆さん方の非常に広い視野に大変多くのことを勉強させていただきました。本当にありがとうございました。21世紀のまちづくりの主役はここにいる皆さんなんです。今、皆さんは12歳から15歳ですか、10年後、13年後には25歳になります。25歳になるということはどういうことか。被選挙権、市議会議員に立候補できるんです、皆さんが。別府のまちをよくしようと、ぜひ市議会議員に立候補してください。そしてきょうの皆さんの質問や提言はしっかり会議録に記録されておりますから、10年前、浜田市長にこういう質問をした、こういう答が返ってきたが、別府はどうなっているんだと、このことを検証してください。そのときには私も、ここで答えた皆さんもいませんけれども、ぜひそのときには皆さん方が議員になって、本物の議員になったときに、あのときにこんなすばらしい提言、質問をしたんだよと。この検証ができる場面が来ることを期待いたしております。

今、皆さん方はまさに夏休み真最中でございます。ことしは先月までたくさんの雨に悩まされましたね。しかし、いよいよ暑い日が続きます。健康には十分気をつけて、一生懸命勉強して、家族や友だちと思い出に残る夏休みにしていただきたいなと思っております。

先月末に夏の宵まつり、皆さん、参加していただきましたか。おうちの方と参加した方もたくさんいらっしゃると思いますが、大変な盛り上がりを見せておりました。今、この別府のまちがいろいろなお祭りやイベントが盛んになって、市民の皆さんがたくさん参加してくれるようになりました。元気な別府がどんどん今見えております。今週末ですか、伝統の地踊り、盆踊り大会、花火大会、亀川の伝統の夏祭があります。そして今月の19日は、幻想的なたいまつ行列の志高湖の火祭りもあります。そして25日からは1,400年以上の歴史を誇っていますが、風流見立て細工、皆さん方知っていると思いますが、あの花魁道中（オイランドウチュウ）の浜脇薬師まつりもあります。本当にこれからぜひご家族で参加をしていただいて、素晴らしい別府の伝統的なお祭り、イベントに皆さん方も一緒に感動していただきたいなと思っております。

最後になりましたが、第4回のべっぷ子ども市議会の開催に御尽力をいただきました別府市子ども会育成会連合会の皆さん、別府市PTA連合会の皆様方、保護者の皆さん、学校の先生方、そして別府市議会の子ども会を支える議員連盟の皆さん方に、大変な御支援と御尽力をいただきましたことに心から感謝を申し上げまして、感想とお礼にかえたいと思います。本当にきょうはありがとうございました。（拍手）

○市議会事務局主事（後藤真由美さん） 続きまして、郷司義明教育長より、本日頑張っていたいただきました子ども議員の皆さん方に、記念品を贈呈いたします。

代表 鶴見台中学校3年 熊本恵里さん

〔教育長より記念品贈呈〕（拍手）

○市議会事務局主事（後藤真由美さん） ここで、子ども議員を代表して、熊本恵里さんより、お礼の言葉があります。

子ども議員、執行部並びに来賓の皆様は、全員ご起立願います。

〔全員起立〕

○子ども議員代表（熊本恵里さん） きょうは私たちの質問などに対して、丁寧にお答えいただきありがとうございました。

これから私たちは別府の市民としてさまざまな活動に参加し、別府を明るく住みよいまちにしていきたいです。

また、この議会に参加することで、自分たちの住んでいる別府への関心が強くなり、とてもいい思い出にもなりました。

きょうは本当にありがとうございました。（拍手）

○市議会事務局主事（後藤真由美さん） それでは、皆様ご着席ください。

〔全員着席〕

○市議会事務局主事（後藤真由美さん） 以上をもちまして、第4回「べっぷ子ども市議会」の閉会式を終了いたします。



別府市議会子ども会を
支える議員連盟 会長

首藤 正

第4回「べっぷ子ども市議会」いかがでしたでしょうか。子どもたちのたくましさや社会力に、今回もまた感心いたしました。

やがて来るこの子どもたちの未来を、子どもたち自身のしっかりした目線で、より良い未来にするために私どもができることは、この社会の中で、今、私たちが行っていることを実践的に教えていくことだと思います。そのための、子ども市議会であることを願っております。

今後とも、この活動を継続しながら、別府の子どもたちの成長を見守り続けていく所存でありますので、先生方、PTAの皆様、そして市子連の皆様、なお一層の温かいご支援をお願いいたします。



別府市教育長

郷司義明

第4回「べっぷ子ども市議会」における子どもたちの発言内容や議場での態度を見ますと、多面的なものの見方や豊かな感性が育っていることを随所に感じることができ、将来の別府を担う子どもたちとして、本当にたのましく思いました。ご指導いただいた関係者の方々に心より感謝いたします。

また、今回の「子ども宣言」は、別府を観光の町として強く認識し、別府が誇る豊かな資源と伝統を守り、観光客に喜ばれる町にするために、自分たちのできることをしっかり努力していくという、素晴らしいものでした。このことを我々大人が率先して実行し、子どもたちにつなげていくことが大切であると痛感しました。

教育委員会といたしましても、子どもたちの願いが生かされるよう、今後も努力してまいります。



別府市子ども会
育成会連合会 会長

平松徹夫

本年も「べっぷ子ども市議会」が多くの成果を上げ終了しましたことを心よりお喜び申し上げます。

第4回「べっぷ子ども市議会」で特に関心を持ったのは次の3点です。

- 1つはゴミ問題などの環境について、
- 2つ目は温泉や自然を生かした観光について、
- 3つ目は学校生活や子どもの福祉に対する教育についての質問や提言であったと思います。

これら「環境」「観光」「教育」といった子ども議員がとらえた『3K』ともいえる問題提起については議会、執行部とも真摯に受け止めこれからの別府の町作りに生かして頂きたいと考えています。

最後にご協力を頂きました皆様に厚くお礼を申し上げますとともに子ども議員の皆様が今回の貴重な体験を生かし活躍されることを期待しています。



別府市PTA連合会
会長

後藤 智

「べっぷ子ども市議会」開催にあたり、ご尽力して下さった方々に感謝申し上げます。

各小中学校の代表者が議員になり模擬市議会を経験する。このような機会がめったになく、自分達が育っている別府に興味を持ちそのことが別府を大切にすることに繋がっていくと思います。

また、子ども達が質問、提言したことのひとつのことが実現されていることを聞き、とても感謝を致しております。子ども達の目、心はとても素直に現実を見つめています。私達大人がハッとするようなこともズバリと指摘します。その中に未来に繋がる何かが隠れているかもしれません。私達PTAは子ども達のため一生懸命にがんばっていきますので、みなさまにおかれましてもこのような場を絶やさず小さな声に耳を傾け聞き逃さぬよう別府の未来を築く子ども達のためよろしくお願い致します。

「未来に夢広がる街別府」

子ども宣言

僕たちは今日、この子ども市議会で大切なふるさと別府について真剣に考えました。

日本でも有数の豊富な温泉、海山に囲まれた自然の恵み、伝統工芸の竹細工など別府市が誇れるたくさんの財産を大切にしたいと思いました。そして、別府市民の一人ひとりがこの街を大切に思い、大好きな自分の街として、誇りをもち、日本国内はもちろん海外からもお越しいただく観光客の皆様を笑顔で迎え、温かいおもてなしを心がけていきたいと思います。そして、ここに以下のことを約束して実行していくことを誓います。

- 1 美しい町をつくるために、まずは自分の学校から日頃のそうじを一生懸命して、地域の環境美化に役立っていきます。
- 2 別府が日本有数の温泉地であり続けられるように資源をムダ使いせず、温泉を大切にしていきます。
- 3 別府にお越しいただくお客様にあいさつができる学校、歌声が響く学校を目指し、おもてなしをしています。

以上、宣言いたします。

平成18年8月1日

べっぴん子ども市議会